

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

理学療法士科 シラバス



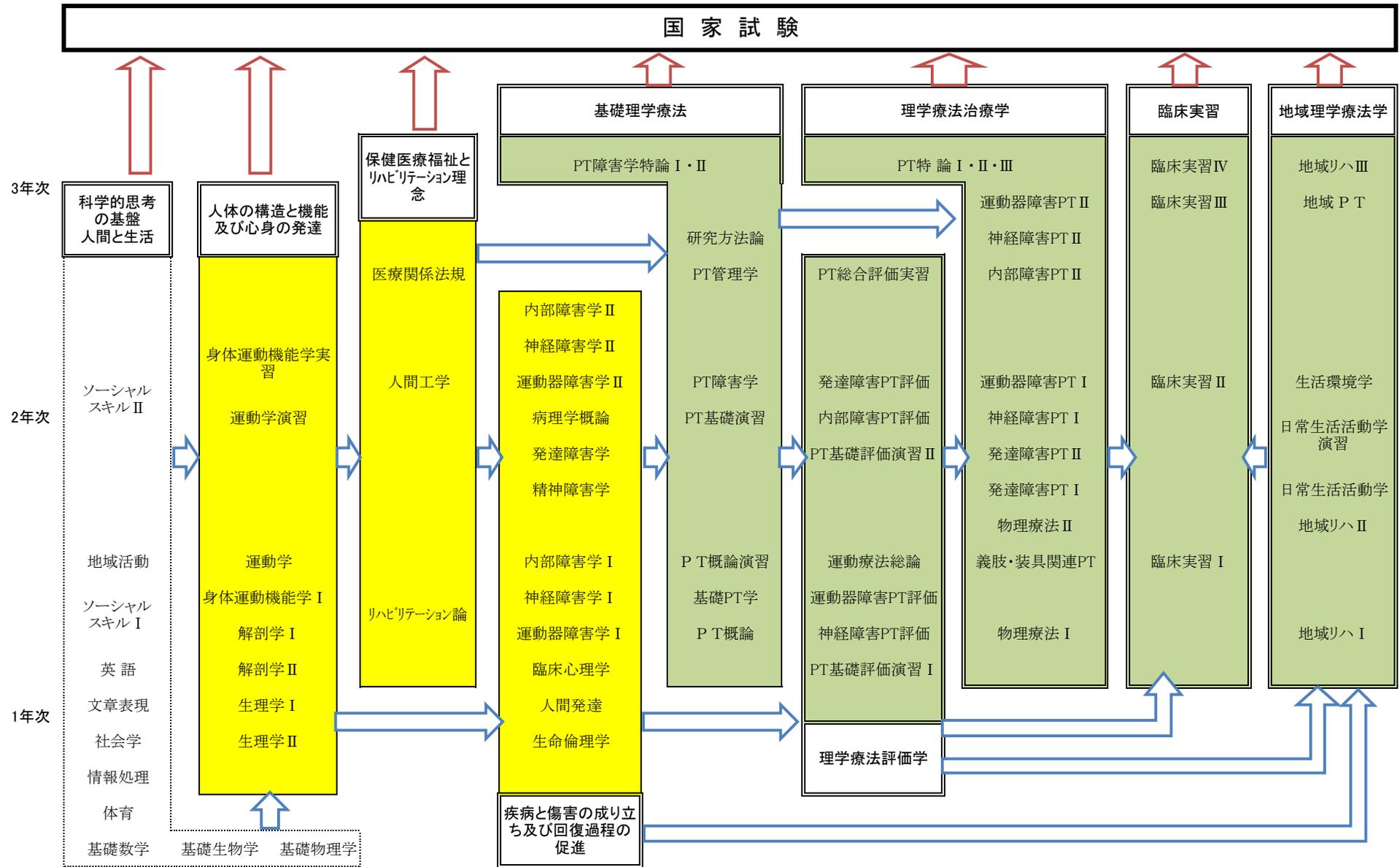
- 教育課程(カリキュラム)
- 科目系統図
- 1年次シラバス(2019年入学生)
- 2年次シラバス(2018年入学生)
- 3年次シラバス(2017年入学生)

平成31年度 理学療法士科カリキュラム(3年課程)

平成29・30・31年度入学生

	教育内容	科目名	区分	必・選	1年次		2年次		3年次		合計 時間数	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的 思考の基盤 人間と生活	基礎生物学	講義	必修	15						15	
		基礎物理学	講義	必修	15	15					30	
		基礎数学	講義	必修	15						15	
		社会学	講義	必修	30						30	
		文章表現法	講義	必修	30						30	
		情報処理	演習	必修	15	15					30	
		英語	講義	必修	30						30	
		体育	実習	必修	30	15					45	
		地域活動	演習	必修	30						30	
		ソーシャルスキルⅠ	演習	必修	15	15					30	
		ソーシャルスキルⅡ	演習	必修			15	15			30	
専門基礎分野	人体の構造と 機能及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	講義	必修	30						30	
		解剖学Ⅱ	講義	必修		30					30	
		生理学Ⅰ	講義	必修	30						30	
		生理学Ⅱ	講義	必修		30					30	
		身体運動機能学	講義	必修	60						60	
		身体運動機能学実習	実習	必修			15	30			45	
		運動学	講義	必修	30	30					60	
		運動学演習	演習	必修			30	30			60	
		人間発達	講義	必修	30						30	
		疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学概論	講義	必修			15	15			30
			内部障害学Ⅰ	講義	必修		30					30
	内部障害学Ⅱ		講義	必修			30				30	
	神経障害学Ⅰ		講義	必修		30					30	
	神経障害学Ⅱ		講義	必修			30				30	
	発達障害学		講義	必修			15	15			30	
	運動器障害学Ⅰ		講義	必修		30					30	
	運動器障害学Ⅱ		講義	必修			30				30	
	精神障害学		講義	必修			15	15			30	
	臨床心理学		講義	必修		30					30	
	保健医療福祉と リハビリテー ションの理念		リハビリテーション論	講義	必修	30						30
		生命倫理	講義	必修	15	15					30	
		人間工学	講義	必修			30				30	
		医療関係法規	講義	必修					15		15	
	基礎理学療法学	理学療法概論	講義	必修	30						30	
		理学療法概論演習	演習	必修	15	15					30	
		基礎理学療法学	講義	必修		30					30	
		研究方法論	講義	必修				15			15	
		理学療法障害学特論Ⅰ	演習	必修					30	30	60	
		理学療法障害学特論Ⅱ	講義	必修					30	30	60	
		理学療法管理学	講義	必修						15	15	
		理学療法評価学	理学療法基礎評価演習Ⅰ	演習	必修	20	40					60
			理学療法基礎評価演習Ⅱ	演習	必修			60				60
			運動器障害理学療法評価法	演習	必修			30				30
神経障害理学療法評価法			演習	必修			30				30	
発達障害理学療法評価法			講義	必修			15				15	
内部障害理学療法評価法			演習	必修			30				30	
理学療法総合評価実習			実習	必修			20	25			45	
理学療法治療学		運動療法総論	講義	必修		15					15	
	運動器障害理学療法Ⅰ	演習	必修			15	15			30		
	運動器障害理学療法Ⅱ	講義	必修					15		15		
	神経障害理学療法Ⅰ	演習	必修			15	15			30		
	神経障害理学療法Ⅱ	講義	必修						15	15		
	物理療法Ⅰ	演習	必修		30					30		
	物理療法Ⅱ	講義	必修			15				15		
	義肢・装具関連理学療法	演習	必修			15	15			30		
	発達障害理学療法Ⅰ	演習	必修			15	15			30		
	発達障害理学療法Ⅱ	講義	必修				15			15		
	日常生活活動学	講義	必修			15	15			30		
	日常生活活動学演習	演習	必修			15	15			30		
	内部障害理学療法Ⅰ	演習	必修			15	15			30		
	内部障害理学療法Ⅱ	講義	必修					15		15		
	理学療法特論Ⅰ	講義	必修					15	15	30		
	理学療法特論Ⅱ	講義	必修					15	15	30		
	理学療法特論Ⅲ	講義	必修					15	15	30		
地域理学療法学	地域リハビリテーションⅠ	講義	必修		15					15		
	地域リハビリテーションⅡ	講義	必修			15				15		
	地域リハビリテーションⅢ	講義	必修					15		15		
	地域理学療法	講義	必修					15		15		
	生活環境学	講義	必修			15	15			30		
臨床実習	臨床実習Ⅰ(見学)	実習	必修		45					45		
	臨床実習Ⅱ(評価)	実習	必修				135			135		
	臨床実習Ⅲ(総合)	実習	必修					315		315		
	臨床実習Ⅳ(総合)	実習	必修						315	315		
	合計			515	475	560	430	495	450	2925		

理学療法士科 平成29・30・31年度入学生 教育課程系統図



2019年度 理学療法士科1年 履修科目一覧

科目名	区分	1年		合計時間数
		前期	後期	
基礎生物学	講義	15		15
基礎物理学	講義	15	15	30
基礎数学	講義	15		15
社会学	講義	30		30
文章表現法	講義	30		30
情報処理	演習	15	15	30
英語	講義	30		30
体育	実習	30	15	45
地域活動	演習	30		30
ソーシャルスキル I	演習	15	15	30
解剖学 I	講義	30		30
解剖学 II	講義		30	30
生理学 I	講義	30		30
生理学 II	講義		30	30
身体運動機能学	講義	60		60
運動学	講義	30	30	60
人間発達	講義	30		30
内部障害学 I	講義		30	30
神経障害学 I	講義		30	30
運動器障害学 I	講義		30	30
臨床心理学	講義		30	30
リハビリテーション論	講義	30		30
生命倫理	講義	15	15	30
理学療法概論	講義	30		30
理学療法概論演習	演習	15	15	30
基礎理学療法学	講義		30	30
理学療法基礎評価演習 I	演習	20	40	60
運動療法総論	講義		15	15
物理療法 I	演習		30	30
地域リハビリテーション I	講義		15	15
臨床実習 I (見学)	実習		45	45

※科目名をクリックするとシラバスページにジャンプします。

基礎生物学	(全8回)	理学療法士科	1年	前期
		担当教員	中川 敏貴	

●授業概要

★この授業のねらい

生物学は将来目指している理学療法士の領域である医学を支える基礎学問です。そのため医学を学ぶためには「生物のことば」を理解する必要があります。今回の講義では生理学の基礎分野を学習することにより、専門科目の生理学を学ぶ際の橋渡しとなるよう学びます。

★仕上がり像

- 1 医学系の科目を学ぶにあたり、今後どのように勉強すれば良いのかを説明できる。
- 2 医学系の基礎知識を理解し、医学系の専門科目の授業にスムーズに移行できるようになる。

●授業内容

1	組織と器官
2	神経細胞の構造とはたらき (神経細胞とは)
3	神経細胞の構造とはたらき (伝達のしくみ)
4	神経細胞の構造とはたらき (生物と刺激)
5	神経系
6	内部環境の維持 (自律神経系による調節)
7	内部環境の維持 (自律神経系と内分泌系)
8	内部環境の維持 (生体防御)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験 (筆記試験) 80点と平常点 (小テストなど) 20点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

生物の未履修者にとっては覚える事柄が多いと感じるかもしれませんが、専門科目を理解する上で必要です。単なる表面的な暗記ではな、本質を理解するように学習してください。そうすることにより今後の学習への意欲が高まります。

基礎物理学	(全15回)	理学療法士科	1年	通年
		担当教員	儀同 清秀	

●授業概要

★この授業のねらい

各種の理学療法を学ぶときに必要となる物理学の基礎を学習します。また、その中で使用する機器に用いられている原理やメカニズムを理解するのに必要な「物理量」に関連した法則を学びます。本科目では、高校で物理を履修していないことも視野におき、主に法則を理解できる力を獲得します。

★仕上がり像

- 1 理学療法士として必要となる論理的な思考の手順を説明できる。
- 2 理学療法で用いられている物理学の基本的な法則や原理を説明できる。

●授業内容

1	物理量と単位 (S I 単位系、単位の換算)		
2	力学の基本		
3	物体の運動と力		
4	力のモーメント		
5	圧力と浮力		
6	エネルギーと仕事		
7	気体		
8	温度と熱		
9	波と音		
10	光		
11	物質と原子		
12	電気 (静電気、直流電流、交流電流)		
13	電力と電力量、ジュール熱		
14	電流と磁場		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、平常点により総合的に評価する。

●教科書・参考図書

教科書： 栗子研著「まるわかり！基礎物理」（南山堂，2011年）
講義プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

授業ではノートを取り、例題や練習問題は自ら解答を試みるよう心がけましょう。
不明な点は、質問をしたり、再度説明を求めて早期に解決するように心がけましょう。

基礎数学	(全8回)	理学療法士科	1年	前期
		担当教員	儀同 清秀	

●授業概要

★この授業のねらい

理学療法士として必要となる数学の基礎を学習します。特に、医療現場で理学療法を行うときに必要となる様々な数値の意味を理解し、また、使用する各種機器の設定を行うときに必要となる数値の基本的な計算方法を習得することを目的とします。

本科目では、高等学校までに学んだ数学の内容の中から、理学療法士として必要となるものを計算課題を中心に復習し、再確認しながら確実な計算力を獲得します。

★仕上がり像

- 1 理学療法士として必要となる論理的な思考の手順が説明できる。
- 2 生理学的検査や理学療法で用いられる各種の機器使用時に必要となる基本的な数的計算ができる。

●授業内容

1	計算の基本（整数・小数・分数の計算）		
2	文字を使った式と計算		
3	数値と単位・有効数字		
4	比と割合		
5	方程式（1次方程式、2次方程式）		
6	関数（1次関数、2次関数）		
7	三角関数		
8	ベクトル		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験結果、平常点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：金原繁監修「これだけはおさえない理工系の基礎数学」（実教出版，2009年）
配付プリント

●履修へのアドバイス

授業ではノートを取り、例題や練習問題は自ら解答を試みるよう心がけましょう。
不明な点は、質問をしたり、再度説明を求めて早期に解決するように心がけましょう。

社会学 (全15回)	理学療法士科	1年	前期
	担当教員	清水 香基	

●授業概要

★この授業のねらい

この授業では、様ざまの社会現象を科学的な方法で捉えることのできる視野と、そこから自分で考え論理を展開することのできる力を養うことを目標とします。一見して、個人は自由な信念や価値観を持って各々の行動を選択しているに見えますが、他方で様ざまの社会現象の影響を受けながら生活しているという側面があります。しかし、そうした社会現象の中での人びとの振る舞いが、今までにない新たな社会現象を導出し、かつての状況を作り変えてきた結果が、今現在我々の社会であると理解することもできるでしょう。そういった個人と社会の相互作用の背後にあるメカニズムやプロセスについて、この授業では近年の社会現象を題材として取り上げながら、それらに関する議論を紹介・解説していくことで、様ざまの社会現象について論理を展開し理解する方法を修得します。

★仕上がり像

- 1 社会現象について、それらの現象がどのようなメカニズムやプロセスによって生じているのかを社会的諸観点から考察し説明することができる。
- 2 社会現象についての簡易なデータを理解することができ、そこから社会現象について考察し説明することができる。
- 3 社会現象について自分で考え、その影響や解決方法について論理を展開することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション -社会学とは何か-	
2	近代史における社会学の歴史と発展	
3	自己と社会	
4	家族と社会	
5	家族の社会的機能 (1)	
6	家族の社会的機能 (2)	
7	結婚と性別役割分業	
8	少子高齢化時代における福祉と社会保障	
9	社会的なもの見方・考え方	
10	社会学で扱われる様々なデータ	
11	社会問題の社会学 (学歴・格差)	
12	社会問題の社会学 (犯罪と逸脱)	
13	社会問題の社会学 (グローバリゼーション)	
14	ポスト近代化時代における個人と社会	
15	まとめ	
	定期試験	

●成績評価のしかた

定期試験(60%)、講義内での発言や討議の積極的な参加度(20%)、各回講義へのレスポンスシートの内容(20%)として総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：配付資料
 参考図書：櫻井義秀 他編「アンビシャス社会学」（北海道大学出版会，2014年）

●履修へのアドバイス

覚えることよりも、理解することを心がけてください。
 自分で考え、自分の言葉で表現されたものを高く評価します。

文章表現法 (全15回)	理学療法士科	1年	前期
	担当教員	小野 昭紘	

●授業概要

★この授業のねらい

自分の意見を伝えたり、相手の話を正確に聞き取るなど、ことばによるやり取りはコミュニケーションの重要な位置を占めます。また、正確で表現力豊かな文章を書くことは、社会人として欠かせない基本的素養です。書き手の考え方、意見心情がどのように表現されているかによって、読み手に対する説得力が大きく違ってきます。そのため、論旨の展開や文脈を整える技術を身に付けることが必要になります。

自分の考えをまとめて、他者に伝わるような文章にしていくプロセスを経験し、レポート等の作成に役立てていくことをねらいとします。

★仕上がり像

- 1 自分の考えていることを具体的に表現できる。
- 2 正確かつ的確に伝える文章表現力を身に付け、実践することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション
2	要約と主旨 社説・コラムによる練習
3	自分を理解してもらうには(1)自己紹介(2)自己推薦書を書く□
4	文章表現の基本 (原稿用紙の使い方)
5	文章表現の基本 (横書き・縦書き・レポート・連絡文)
6	手紙文の基本ルール 恩師への近況報告
7	材料の整理・主題の設定
8	読む人に理解される文章とは 外来語 カタカナ語 1～50
9	外来語 カタカナ語 51～100
10	変換ミスを防ぐために 同音異義語(あ～な)
11	変換ミスを防ぐために 同音異義語(は～わ)
12	敬語を正しく使うために(尊敬語)
13	敬語を正しく使うために(謙譲語、丁寧語)
14	長文に挑戦しよう 1200字の小論文
15	小論文の清書提出 定期試験の確認
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験 (70%) および履修状況 (30%) から総合評価とします。

●教科書・参考図書

特に指定しません。授業中プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

考えていることをとにかく表現してみましょう。国語辞典を携帯し、すぐに使用できるようにしましょう。

書いた文章は必ず見直す習慣をつけましょう。あれっ、おかしいなど感じる事が重要です。幅広い知識・教養が基本ですので、新聞を読む習慣をつけましょう。社会人として基本的な文章読解力と文章構成能力を身に付けるよう頑張りましょう。

情報処理 (全15回)	理学療法士科	1年	通年
	担当教員	大西 秀樹	

●授業概要

★この授業のねらい

近年の医療高度化は、従来の医学固有の技術のみならず周辺領域の科学技術によって支えられています。特に急速な発展を遂げているIT技術はその代表です。この授業ではパソコンで広く使用されている日本語ワープロソフト、表計算ソフトの操作を演習を通して学び、情報処理に必要な技能や応用力を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 初めての人でもパソコンを操作することができる。
- 2 Word、Excelを使いこなすことができる。
- 3 インターネットなども活用でき、情報検索や処理ができる。
- 4 パソコンを使用し、名簿作成や報告書作成などの専門の業務を効率よくできる。

●授業内容

1	Windowsの基本操作とファイル管理
2	インターネットの利用法と活用
3	Wordの起動から文書の保存まで
4	体裁を整えた文書の作成（ビジネス文書）
5	表の作成と編集
6	段組み文書
7	差込印刷
8	入力速度の測定、文書作成演習
9	Excel2013の特徴と便利な入力方法の理解
10	基本的な統計関数による集計
11	基本的なグラフ・実用的なグラフの作成
12	論理関数、検索関数
13	条件付き集計関数
14	データの整理・抽出
15	Excel総合演習 定期試験

●成績評価のしかた

Word・Excelの実技(40点)と課題提出(60点)を総合して評価します。

●教科書・参考図書

配付プリント および
「Windows 8 対応 30時間でマスター Office 2013」(実教出版)

●履修へのアドバイス

興味を持ち積極的に授業を受けましょう。また、実習室の空き時間を利用し、早く正確にキーボードが打てるよう入力練習などを心がけましょう。

英 語	(全15回)	理学療法士科	1年	前期
		担当教員	北村 知加美	

●授業概要

★この授業のねらい

国際社会化が進む中、公用語として幅広く使用している「英語」による会話を学びます。リハビリテーションの性格上、切っても切れない関係にある上、コミュニケーションの1つの手段として日常会話の取得を目指します。

医療に関係した英文の講読や英語表現の演習を通して、医学および医療現場で良く使用されている英語の読解力・聴解力・表現力を養います。

★仕上がり像

- 1 簡単な挨拶をはじめとする日常英会話ができる。
- 2 コミュニケーションの手段の1つとして、日常使用することができる。
- 3 英語に慣れ、医療現場でも実践できる。
- 4 アブストラクト(要旨)が読むことができる。

●授業内容

1	オリエンテーション	シラバス テキスト案内 自己紹介 挨拶
2	Fever(発熱)	発熱・医学全般用語・会話表現・リスニング 読解(case summary)
3	Anemia(貧血)	血液に関する用語・会話表現・リスニング 病院での挨拶
4	Dehydration(脱水症)	脱水に関する用語・会話表現・リスニング 読解(what to do)
5	Obesity(肥満)	肥満に関する用語・会話表現・リスニング 問診(身体部位)
6	Headache(頭痛)	脳神経に関する用語・会話表現・リスニング 読解(症例理解)
7	Chest Pain(胸痛)	心臓・血管に関する用語・会話表現・リスニング 問診(痛み)
8	Cough(咳)	呼吸器に関する用語・会話表現・リスニング 読解(身体機能)
9	Abdominal Pain(腹痛)	消化器系に関する用語・会話表現・リスニング 問診(経過)
10	Dysphagia(嚥下障害)	誤嚥に関する用語・会話表現・リスニング 基本肢位指示
11	Hearing loss(聴力障害・難聴)	難聴に関する用語・会話表現・リスニング 応用肢位指示
12	Fracture(骨折)	外傷やその治療に関する用語・会話表現・リスニング
13	Pregnancy(妊娠)	妊娠に関する用語・会話表現・リスニング
14	Medical Interview	用語まとめ
15	Medical Interview	会話表現のまとめ
	定期試験	

●成績評価のしかた

定期試験(70点)および平常点(30点)で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：日本医学英語教育学会 編集「総合医学英語テキスト step1」(メジカルビュー社、2016)

●履修へのアドバイス

積極的に恥ずかしがらずに参加してください。会話は間違えながら覚えるものです。

体育 (全23回)	理学療法士科	1年	通年
	担当教員	池田 達彦	

●授業概要

★この授業のねらい

体育実技を通して自身の体力の向上をめざします。各種目の練習、ゲームを通して隣人とのコミュニケーション(相手への思いやり・相手の立場等)を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 各種目の技術・戦術・ルール、そして楽しさを理解できる。
- 2 体力の維持・増進ができ、身体を動かす事の楽しさを知ることができる。
- 3 他人との協調性を身に付ける事ができる。

●授業内容

1	オリエンテーション(授業のガイダンスと導入)	16	ゲーム、ルール、審判(2)
2	バレーボール、基本(オーバーハンド・アンダーハンドパス)	17	ゲーム、ルール、審判(3)
3	ゲーム、ルール、審判(1)	18	ゲーム、ルール、審判(4)
4	ゲーム、ルール、審判(2)	19	バドミントン基本(サービス、ラリー)
5	ゲーム、ルール、審判(3)	20	ゲーム、ルール、審判(1)
6	ゲーム、ルール、審判(4)	21	ゲーム、ルール、審判(2)
7	まとめ：サービス・実技テスト	22	ゲーム、ルール、審判(3)
8	サッカー(フットサル)、基本(キック、トラップ、シュート)	23	ゲーム、ルール、審判(4)
9	ゲーム、ルール、審判(1)		
10	ゲーム、ルール、審判(2)		
11	ゲーム、ルール、審判(3)		
12	ゲーム、ルール、審判(4)		
13	まとめ：シュート・実技テスト		
14	バスケットボール基本(ドリブル、パス、シュート)		
15	ゲーム、ルール、審判(1)		

●成績評価のしかた

実技点・チーム点・参加状況等で評価します。

●教科書・参考図書

使用しません。

●履修へのアドバイス

授業開始5分前に集合してください。運動に適した服装(ジャージ)で、夏はTシャツ、ハーフパンツでも大丈夫です。靴は室内用スニーカー使用してください。

地域活動	(全15回)	理学療法士科	1年	前期
		担当教員	鈴木英樹 石田享平	

●授業概要

★この授業のねらい

地域の中で一般市民や高齢者及び障害者が、どのような生活をして「暮らして」いるのかをボランティア活動や当事者の話を通して学びます。また、それらの人々に対して理学療法士は何が行えるのかを学びます。

★仕上がり像

- 1 現代社会におけるボランティア活動が何故必要かの意義、特徴を説明できる。
- 2 対象者とのふれあいを通して、日々の生活の現状や課題を述べるができる。

●授業内容

1	理学療法士の立場から見た地域活動（リハビリテーションと地域活動）
2	理学療法士の立場から見た地域活動（理学療法士が行う様々な地域活動）
3	理学療法士の立場から見た地域活動（人々の生活に興味を持つためには）
4	理学療法士の立場から見た地域活動（地域の課題を探す①）
5	理学療法士の立場から見た地域活動（地域の課題を探す②）
6	車いす使用者の立場から見た地域活動（人間らしく暮らすこと）
7	車いす使用者の立場から見た地域活動（街に出ること）
8	車いす使用者の立場から見た地域活動（ユニバーサル・デザインの理念）
9	車いす使用者の立場から見た地域活動（ユニバーサル・デザインの実践）
10	車いす使用者の立場から見た地域活動（前向きに生きること）
11	車いす使用者の立場から見た地域活動（入院と在宅との架け橋）
12	難病者の立場から見た地域活動（難病の理解）
13	難病者の立場から見た地域活動（難病の方の生活支援）
14	難病者の立場から見た地域活動（当事者団体（当事者の会）の活動を知る）
15	難病者の立場から見た地域活動（難病センターについて知る）

●成績評価のしかた

履修状況25点、毎回のリアクションペーパー75点で総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書の使用はありません。
必要に応じて、講義プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

実践活動を通して、積極的に参加をしてください。

ソーシャルスキルⅠ (全15回)	理学療法士科	1年	通年
	担当教員	佐藤 真貴子	

●授業概要

★この授業のねらい

私たちの仕事は、医学的知識をもとに身に付けた技術を利用者（被援助者）にサービスとして提供することです。しかし、いくら確かな知識・技術を身に付けても利用者と理学療法士（援助者）の間に信頼関係を築くことができなければ、その知識・技術を役立てることはできません。この科目では、医療・福祉に携わるものとして身に付けておきたい様々なコミュニケーションについて学びます。

★仕上がり像

- 1 臨床でのコミュニケーションの基本的な心構えを整えることができる。
- 2 被援助者から好感をもたれるコミュニケーション能力を獲得することができる。
- 3 チームワークの中における適切なコミュニケーション能力を獲得することができる。
- 4 臨床実習の意義を理解し、臨床実習に臨む姿勢を整えることができる。

●授業内容

1	臨床実習とは
2	見学実習に必要なスキル
3	デイリーノート
4	臨床での見学：演習①
5	見学実習での自己目標の立て方
6	見学する視点とメモの取り方
7	臨床での見学：演習②
8	伝わりやすい報告の書き方
9	自己紹介用紙（自分のことを伝えよう）
10	自己紹介用紙（実習目標を立てよう）
11	自己紹介用紙（体裁を整えよう）
12	コミュニケーションー電話のかけ方
13	コミュニケーションー礼状の書き方
14	臨床での評価（演習：問診）
15	臨床での評価（演習：基本評価実技）

●成績評価のしかた

提出物、履修状況等を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：使用しません。
講義プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

授業の中ではいろいろな演習を行います。言われたからするのではなく、どんなことも自ら目的をもって臨むようになりましょう。何事も自分次第です。言葉や態度でひとに伝えるコミュニケーションは、頭で理解していても実際にやってみるとなかなか難しいものです。臨床実習Ⅰに向けて、演習の中でいろいろ体験してみましょう。

解剖学 I (全15回)	理学療法士科	1年	前期
	担当教員	曾我部 いづみ	

●授業概要

★この授業のねらい

これから医学を学ぶものにとって「解剖学」は知識の土台となるものです。今後学ぶ専門分野の科目や卒業後の臨床においても、常に問われる分野の学問です。身体（解剖学では、人体と呼びます）の構造を1つ1つ学び、表現するための専門用語を知り、基本的な形態を学んでいきます。「解剖学 I」では、主として個体生命維持に関わる内臓や感覚器の構造と機能を学びます。

★仕上がり像

- 1 人体の構造を表現する際、解剖学的用語を使用することができる。
- 2 消化器・内臓、呼吸・循環器、内分泌・感覚器の基本構造と機能を説明することができる。

●授業内容

1	基本事項と消化器総論、口腔の機能と構造
2	消化器系（咽頭・食道、胃）
3	消化器系（十二指腸・小腸、大腸）
4	消化器系（肝臓と胆嚢）
5	消化器系（膵臓）、呼吸器系の導入
6	呼吸器系（副鼻腔、咽頭、喉頭、気管・気管支）
7	呼吸器系（肺）、泌尿器系（腎臓～尿道）
8	生殖器系（女性、男性）
9	循環器系 総論（大循環・小循環等）
10	循環器系（心臓）
11	循環器系（動脈）
12	循環器系（静脈・リンパ）
13	内分泌系（下垂体・副腎等）
14	感覚器系・眼・鼻・耳・神経終末
15	まとめ 定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、履修状況などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：平田幸雄 訳「解剖学アトラス 第10版」（文光堂、2012）
野村 嗟 編集「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」（医学書院、2015）

参考図書：相磯貞和 訳「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」（南江堂、2016）

●履修へのアドバイス

解剖学アトラスに沿って進みます。予習復習を心がけてください。
模型や標本を使用しますので、授業の前後に自分の目で確認を行ってください。

解剖学Ⅱ	(全15回)	理学療法士科	1年	後期
		担当教員	曾我部 いづみ	

●授業概要

★この授業のねらい

医学を学ぶものにとって「解剖学」は知識の土台となる科目であり、2年次から学ぶ専門分野の科目や卒業後の臨床においても、常に問われる分野の学問です。前期に学んだ解剖学Ⅰに引き続き、この科目では人体の構造のうち中枢神経系について、その構造と機能を学びます。

★仕上がり像

- 1 解剖学的用語を適切に使用することができる。
- 2 中枢神経の種類とその構造、機能をリハビリテーションと関連づけて説明することができる。

●授業内容

1	神経系の総論・神経の構造、発生
2	脳（脳室系・脳、脊髄膜、動脈）
3	脳・大脳半球
4	脳幹（延髄）
5	脳幹（橋・中脳）
6	脳幹（間脳）
7	小脳、大脳髄質の構造ならびに大脳基底核
8	脊髄神経
9	脳神経（嗅神経・視神経・動眼神経・滑車神経・三叉神経・外転神経）
10	脳神経（顔面神経・聴神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経）
11	自律神経（概論と交感神経系）
12	自律神経（副交感神経系）
13	神経路（上行路・感覚路）
14	神経路（下行路・錐体路・錐体外路）
15	まとめ・神経障害との関わり
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、履修状況などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：平田幸雄 訳「解剖学アトラス 第10版」（文光堂、2012）
野村 嗟 編集「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」（医学書院、2015）

参考図書：相磯貞和 訳「ネッター解剖学アトラス 原著第6版」（南江堂、2016）

●履修へのアドバイス

解剖学はもちろんですが、身体運動機能学とも系統立てて学習するようにしてください。

生理学 I	(全 15 回)	理学療法士科	1 年	前期
		担当教員	竹下 悠哉	

●授業概要

★この授業のねらい

生命活動を維持するために必要な中枢神経系、末梢神経系、筋の運動、血液などの機能について学び、臨床医学や専門分野を学ぶために必要な基礎知識を身に付けることを目標とします。

★仕上がり像

- 1 生命の維持メカニズムの概略を説明できる。
- 2 中枢神経系の役割と機能を説明できる。
- 3 筋の活動を把握し、説明できる。
- 4 感覚刺激がどのように伝達され、中枢神経系に情報として到達するのか説明できる。
- 5 血液の特性と機能を説明できる。

●授業内容

1	生命現象と人体
2	細胞の構造と機能
3	神経の興奮伝導と末梢神経(神経細胞の構造・興奮の発生と伝達・末梢神経の種類)
4	神経の興奮伝導と末梢神経(自律神経・シナプスにおける興奮の伝導)
5	中枢神経系(中枢神経系とは・脊髄)
6	中枢神経系(脳幹・小脳)
7	中枢神経系(間脳・大脳皮質・大脳基底核と脳梁・辺縁系・脳室と脳脊髄液・血液脳関門)
8	中枢神経系(脳の高次機能)
9	筋と骨(筋の分類・骨格筋)
10	筋と骨(心筋・平滑筋・心電図・骨)
11	感覚(感覚とは・体性感覚・内臓感覚)
12	感覚(特殊感覚)
13	血液(血液組織と機能・赤血球)
14	血液(白血球・血小板・血漿・血液型)
15	心臓と循環(血液循環・心臓の興奮と刺激伝導系・心電図)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験および履修状況等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岡田隆夫 他著「標準理学療法・作業療法学 生理学 第5版」(医学書院, 2018年)

●履修へのアドバイス

テキストに沿って授業を進めます。図と表での理解を中心にメカニズムを学習します。

生理学Ⅱ	(全15回)	理学療法士科	1年	後期
		担当教員	竹下 悠哉	

●授業概要

★この授業のねらい

生命活動を維持するために必要な中枢神経系、末梢神経系、筋の運動、血液などの機能について学び、臨床医学や専門分野を学ぶために必要な基礎知識を身に付けることを目標とします。

★仕上がり像

- 1 循環、呼吸系のメカニズムを説明できる。
- 2 消化吸収の機構を説明できる。
- 3 ホルモンの働きを説明できる。
- 4 エネルギー代謝、体温調節のメカニズムを説明できる。
- 5 各単元内容を、人体の中での一連の機能として考え、説明できる。

●授業内容

1	心臓と循環（血液の拍出と血圧・心周期）
2	心臓と循環（前負荷－後負荷と収縮・心機能曲線・血圧調節）
3	心臓と循環（微小循環と物質交換・静脈還流・臓器循環・リンパ循環）
4	呼吸とガスの運搬（外呼吸と内呼吸・気道と肺胞・呼吸運動・呼吸気量）
5	呼吸とガスの運搬（ガス交換とガス運搬・呼吸の調節・病的呼吸）
6	尿の生成と排泄
7	酸塩基平衡
8	消化と吸収（消化器の役割・口腔内消化と嚥下 食道における食物輸送・胃の役割と消化・十二指腸における消化）
9	消化と吸収（空腸-回腸における消化と栄養吸収・大腸の役割・肝臓の役割）
10	内分泌（内分泌機能とホルモン）
11	内分泌（各腺から分泌されるホルモンの作用・内分泌細胞）
12	代謝と体温（栄養素・エネルギー代謝）
13	代謝と体温（体温）
14	生殖と発生
15	運動生理
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験および履修状況等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：岡田隆夫 他著「標準理学療法・作業療法学 生理学 第5版」（医学書院，2018年）

●履修へのアドバイス

テキストに沿って授業を進めます。図や表での理解を中心にメカニズムを学習します。

身体運動機能学 (全30回)	理学療法士科	1年	前期
	担当教員	富永 淳	

●授業概要

★この授業のねらい

この科目は、言い換えれば「身体の地理」です。いろいろな場所の名称や〇〇地方・〇〇国といった名前や呼称を覚えなければなりません。場所の名称から「人体のどこに当たるのか」具体的に示す事ができ、説明できることを目標としています。まず、身体の「骨」を学び、それらに付いて身体を動かす「筋」を把握して、「関節」を覚えます。そして次に、身体中を縦横無尽に走る血管や神経も1つ1つ確認しながら学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 筋骨格系の専門用語を理解し、使用することができる。
- 2 骨・関節・靭帯・筋・神経などの位置関係を説明することができる。
- 3 名称から具体的な場所を身体上で示すことができる。

●授業内容

1	オリエンテーション 総論	16	上肢帯（上腕にある筋と神経）
2	下肢帯（構成する骨：骨盤を含む）	17	上肢帯（前腕にある筋と神経）
3	下肢帯（関節と靭帯：股・膝・足）	18	上肢帯（手部にある筋と神経）
4	下肢帯（骨、関節、靭帯の確認）	19	上肢帯（筋と神経の確認）
5	下肢帯（骨盤にある筋と神経）	20	上肢帯（関節運動と筋について）
6	下肢帯（大腿にある筋と神経）	21	上肢帯のまとめ・小テスト
7	下肢帯（下腿にある筋と神経）	22	体幹（脊柱の骨と関節・靭帯）
8	下肢帯（足部にある筋と神経）	23	体幹（胸郭の骨と関節・靭帯：呼吸）
9	下肢帯（筋と神経の確認）	24	体幹（関節と靭帯の確認）
10	下肢帯（関節運動と筋について）	25	体幹（上部（頭部・頸部）の筋と神経）
11	下肢帯のまとめ・小テスト	26	体幹（前面（腹部）の筋と神経）
12	上肢帯（構成する骨：肩甲骨含む）	27	体幹（後面（背部）の筋と神経）
13	上肢帯（関節と靭帯：肩・肘・手）	28	体幹（筋と神経の確認）
14	上肢帯（骨、関節、靭帯の確認）	29	体幹（関節運動と筋について）
15	上肢帯（肩甲帯にある筋と神経）	30	体幹のまとめ・小テスト

●成績評価のしかた

筆記テスト90点（下肢帯・上肢帯・体幹の各小テスト30点×3回）
および平常点（課題提出など）10点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：野村巖 編「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」（医学書院，2015年）
平田幸男 訳「解剖学アトラス 原著第10版」（文光堂，2012年）

参考図書：長戸康和 訳「カラースケッチ解剖学 第4版」（廣川書店，2017年）
丸山仁司 訳「療法士のための体表解剖学」（ガイヤブックス，2017年）

●履修へのアドバイス

専門用語が多く出てきますが、医療従事者として必要な、人体の構造と機能を示す共通言語です。専門用語に多く触れ、慣れることで様々な用語の概略・視覚的・言語的な理解を深めるきっかけとしてください。覚えることが非常に多いため、復習を基本として頑張ってください。

運動学 (全30回)	理学療法士科	1年	通年
	担当教員	時永広之 黒澤辰也	

●授業概要

★この授業のねらい

運動学は、身体運動を科学的に捉える学問です。運動は関節が筋によって動かされることで起こっています。筋は中枢神経からの命令によって動いています。

運動学では生理学・身体運動機能学等で学習した骨・筋・関節・神経系の構造・機能を基に、関節運動、中枢神経系と運動の関係や、人間の全身的な運動がどのように行われているかを理解することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 身体運動に関わる物理学的な法則を説明できる。
- 2 骨・関節と筋の位置関係及び、関節運動とそれに関わる筋の作用を説明できる。
- 3 運動の発現から実行までの機序を説明できる。
- 4 正常な姿勢を支えている身体機能及び異常姿勢の原因について説明できる。
- 5 歩行周期、歩行時の関節運動・筋活動・重心移動の様態及び機能について説明できる。
- 6 呼吸運動の仕組みと身体のエネギー代謝について説明できる。
- 7 運動学習の基本的事項について説明できる。

●授業内容

1	身体運動の基本的事項	16	随意運動（総論）
2	身体運動と「てこ」	17	随意運動（機序）
3	関節運動の基礎知識	18	関節運動
4	上肢帯の運動	19	姿勢～基本事項、身体重心
5	肩関節の運動	20	姿勢立位姿勢の安定性
6	肘関節と前腕の運動	21	姿勢～立位姿勢と筋活動
7	手関節と手の運動(手関節と手根管)	22	異常姿勢
8	手関節と手の運動(手部アーチと手指運動)	23	歩行（歩行周期、重心移動）
9	体幹の運動	24	歩行（関節角度変化）
10	下肢帯と股関節の構造と運動	25	歩行（筋活動、上肢体幹の運動）
11	下肢帯と股関節の筋及び骨盤と股関節	26	歩行（まとめ）
12	膝関節の構造と運動	27	呼吸運動
13	膝関節の筋及び膝蓋骨	28	エネルギー代謝（基礎代謝、運動強度）
14	足関節・足部の構造と運動	29	エネルギー代謝（エネルギー消費量・代謝）
15	足部のアーチと変形	30	運動学習
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(筆記)30点、中間テスト(3回)60点、平常点(提出物)10点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：田村隆一 他著「基礎運動学 第6版 補訂」（医歯薬出版，2012年）
 中島雅美 他編「基礎から学ぶ運動学ノート 第2版」（医歯薬出版，2016年）
 参考図書：嶋田智明 監訳「筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版」（医歯薬出版，2012年）

●履修へのアドバイス

毎回の授業前に学習範囲の生理学的・身体運動機能学Ⅰ・Ⅱの見直しをして授業に臨んでください。授業前後に運動学ノートの該当箇所に取り組んでください。実際に身体を動かしたり、他者の観察や触診が理解につながりますので、積極的に行いましょう。わからないことはできるだけ早めに質問等をして解決してください。授業後に記入する授業ポートフォリオを学習に活用してください。

人間発達 (全15回)	理学療法士科	1年	前期
	担当教員	笹木 美幸	

●授業概要

★この授業のねらい

人間は生まれもってすべての能力が備わっているわけではありません。それぞれの発達時期にどのような能力が発達するか、認知、社会、身体などの側面から学んでもらいます。また、皆さんがまだ経験していない成人期以降の発達も学ぶことから、「ゆりかごから墓場まで」の生涯にわたる発達について勉強します。今後のリハビリテーションにおいて、アプローチをする上で役立ててください。

★仕上がり像

- 1 発達の諸概念を正しく理解し、説明することができる。
- 2 各発達段階(乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期)の発達の違いを理解し、それに対する問題意識を述べることができる。
- 3 リハビリテーションにおいて対象となる、多岐にわたる心身機能やその成長の遅れや疾病(異常)および老化に起因する障害像に触れ理解し、説明することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション・発達とは何?		
2	人間発達(発達理論)		
3	発達検査		
4	姿勢反射・反応		
5	運動発達(0~3ヶ月)		
6	運動発達(4~6ヶ月)		
7	運動発達(7~9ヶ月)		
8	運動発達(10~12ヶ月)		
9	運動発達(13~18ヶ月)		
10	姿勢反射・反応と6歳までの発達		
11	上肢機能の発達		
12	ADLの発達(遊び・食事・排泄・更衣)		
13	感覚・知覚・認知・社会性の発達		
14	学童・青年・成人・老年期の発達		
15	発達障害とまとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験・レポート・授業への参加態度・履修状況等を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書: 上杉雅之 監「イラストでわかる人間発達学」(医歯薬出版, 2015年)

●履修へのアドバイス

楽しい授業にするために、授業中のルールを守り積極的に参加しましょう。

内部障害学 I	(全 15 回)	理学療法士科	1 年	後期
		担当教員	沖田 孝一	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床において経験すると思われる代表的な内科疾患について、その病態、症状、治療に関して学びます。また、内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に、その実践に応用できるように知識を整理します。

★仕上がり像

- 1 代表的な内科疾患の基礎病態を把握し、説明することができる。
- 2 病態と合併症の関連性を説明することができる。
- 3 各疾患の治療について説明することができる。
- 4 退行性変化および加齢性の変化について説明することができる。

●授業内容

1	総論（内科学とは 内科学とリハ）
2	総論（診断の手順 問診と視診、触診、打診、聴診）
3	総論（臨床検査と薬物療法）
4	症候学（発熱、全身倦怠、嘔吐、易感染性、意識障害）
5	症候学（めまい、浮腫、頭痛、ショック、DIC）
6	循環器疾患（心臓血管系の構造と機能）
7	循環器疾患（症候と病態生理）
8	循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患）
9	循環器疾患（心弁膜疾患、心筋症、心不全、不整脈）
10	循環器疾患（大動脈疾患、末梢性動脈疾患）
11	呼吸器疾患（呼吸器系の構造と機能）
12	呼吸器疾患（症候と病態生理）
13	呼吸器疾患（上気道炎、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患）
14	消化器疾患（消化器系の構造と生理）
15	消化器疾患（症候と病態生理、食道疾患）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験と履修状況により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：
前田眞治 他著「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 内科学 第3版」（医学書院, 2014）

参考図書：
大内尉義 編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 老年学 第4版」（医学書院, 2014）

●履修へのアドバイス

内部障害学は臨床医学の基本です。解剖学、生理学、病理学と関連づけて学習するようにしましょう。

神経障害学 I (全15回)	理学療法士科	1年	後期
	担当教員	富永淳 山本ともみ 内山大輔 吉田嵩 星有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

神経障害患者のリハビリテーションを行う上で必要な基礎知識について学習します。中枢神経系の疾患について発症要因や病態，症状の特徴および医学的治療法について学びます。

★仕上がり像

- 1 中枢神経系各部位の構造・機能と神経症状・症候群を関連づけることができる。
- 2 各疾患・症候群の特徴を挙げ，発症要因や病態，出現する症候について説明ができる。
- 3 代表的な疾患・症候群の医学的治療方法について説明ができる。

●授業内容

1	中枢神経系の解剖と機能 (大脳皮質・基底核・辺縁系)
2	中枢神経系の解剖と機能 (小脳・脳幹・脳脊髄液)
3	中枢神経系の解剖と機能 (脳神経・脊髄・伝導路)
4	脳血管障害
5	脳梗塞
6	脳出血
7	外傷性脳損傷・脳神経外科領域の疾患 (感染性疾患・その他)
8	脳腫瘍・頭蓋内圧亢進・脳浮腫・脳ヘルニア
9	変性疾患総論
10	脱髄疾患総論
11	神経筋疾患総論
12	パーキンソン病と類似疾患
13	脊髄疾患総論
14	脊髄損傷(頸椎)
15	脊髄損傷(胸腰椎)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験 (90点) 及び授業への参加態度、課題への取り組みなどの平常点 (10点) により総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書：川平和美 編「標準理学療法・作業療法 神経内科学 第4版」(医学書院，2013年)
医療情報科学研究所 編「病気がみえる Vol. 7 脳・神経 第2版」
(MEDIC MEDIA社，2017年)

●履修へのアドバイス

一つ一つの疾患や症候群について、覚えることが非常に多い分野です。常に予習復習を心がけ、疑問点などはその場で解決するよう心がけてください。

運動器障害学Ⅰ (全15回)	理学療法士科	1年	後期
	担当教員	富永 淳	

●授業概要

★この授業のねらい

「身体運動機能学」や「運動学」などで学んだ身体の構造と機能の知識をもとに、まず、運動器とは何かを一緒に考えながら、運動器の障害（整形外科領域）の発症から治療までの流れを学習します。ここでは、理学療法が対象とする代表的な疾患を挙げ、病態像や画像などの紹介を織り交ぜながら評価から治療、リスク管理までを総合的に学習します。

★仕上がり像

- 1 運動器障害の受傷機転からその症状までを説明できる。
- 2 対象とする運動器障害の理学療法評価項目の目的と意義を説明できる。
- 3 疾患に即した各種の検査測定を挙げることができる。

●授業内容

1	運動器の構造と機能および障害		
2	骨折 総論 治療の流れと画像診断		
3	骨折 各論（上肢）		
4	骨折 各論（下肢）		
5	骨折 各論（体幹）		
6	靭帯損傷 各論（捻挫と脱臼）		
7	靭帯損傷 各論（十字靭帯・三角靭帯）		
8	変形性関節症 各論（膝）		
9	変形性関節症 各論（股・脊椎）		
10	関節リウマチ 総論 病態と障害像		
11	関節リウマチ 各論（関節症状）		
12	関節リウマチ 各論（関節外症状）		
13	腰痛症 各論（一般的な腰痛）		
14	腰痛症 各論（椎間板ヘルニア）		
15	肩関節の痛み 凍結肩・腱板損傷		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90点、平常点（提出課題等）10点を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：落合慈之 監「整形外科疾患ビジュアルブック 第2版」
（学研メディカル秀潤社，2018年）
参考図書：竹内義享 他著「目で見える運動機能検査法」（南江堂，2018年）
内田淳正 他著「標準整形外科学」（医学書院，2018年）

●履修へのアドバイス

運動器障害の理学療法で、留意することは「痛み」「筋力の低下」「関節可動域の制限」から波及して日常生活上の活動が障害されることです。

臨床心理学 (全15回)	理学療法士科	1年	後期
	担当教員	渡辺 隼人	

●授業概要

★この授業のねらい

- 1 基本的な心理学についての事項を習得します。
- 2 臨床心理学の主要技法について学びます。
- 3 ヒトの心理発達について、特に防衛機制について学びます。
- 4 心理検査についての基本的な知識、およびその利用法について学びます。

★仕上がり像

- 1 自身が臨床心理的介入に参加するにあたり、どのような知識技能を身につける必要があるかを説明できる。
- 2 臨床心理の主要技法に関して説明できる。
- 3 ヒトの心理発達に対する理解を深め、防衛機制的な行動・心理状態について説明できる。
- 4 種々の心理検査について、何を測定するものかを理解し、適切な利用のため必要な技能を説明できる。

●授業内容

1	ガイダンス・心理学の歴史		
2	臨床心理学とは		
3	臨床心理学者とその思想		
4	臨床心理の主要技法 (精神分析療法)		
5	臨床心理の主要技法 (来談者中心療法)		
6	臨床心理の主要技法 (認知行動療法)		
7	記憶と学習		
8	条件付けと認知行動療法		
9	心理発達について (ライフステージ)		
10	心理発達について (防衛機制)		
11	心理発達について (転移・死の受容)		
12	心理検査の基本 (作成法と成績の見方)		
13	心理検査の基本 (実習)		
14	様々な心理検査 (質問紙法)		
15	様々な心理検査 (投影法, 作業検査)		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験 (85点)、平常点 (15点: 毎回の小テスト・履修状況) を総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書: 松原達哉著「史上最強カラー図解 臨床心理学のすべてがわかる本」
(ナツメ社, 2010年)

●履修へのアドバイス

理学療法士国家試験に出題される領域を中心に、なるべく広範な臨床心理学についての知識を提供したいと考えています。毎時間内できちんと知識習得できるよう、集中して授業に参加することが望ましいです。

リハビリテーション論 (全15回)	理学療法士科	1年	前期
	担当教員	小林 巧	

●授業概要

★この授業のねらい

これから学んで行く過程で、将来専門職として必要な専門領域に関する知識を学び理解することを目的とします。その中で医学的リハビリテーションの中心である 理学療法や作業療法を実施するための必要な知識を習得します。

★仕上がり像

- 1 リハビリテーションの概念と関係職種との連携のあり方を説明することができる。
- 2 リハビリテーションの対象疾患となるリハビリテーション・アプローチを説明することができる。

●授業内容

1	リハビリテーションの概念と定義		
2	リハビリテーションの理念		
3	健康と病気の概念と障害のとらえ方		
4	病期と障害分類		
5	医学的リハビリテーションの専門職		
6	チーム医療と専門職の役割		
7	障害と評価・記録		
8	ADLとQOL		
9	急性期リハビリテーション		
10	回復期リハビリテーション		
11	生活期リハビリテーション		
12	地域リハビリテーション		
13	社会保障制度の概要		
14	各種疾患のリハビリテーション		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験と平常点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：椿原彰夫 編「リハビリテーション総論 改訂第3版」（診断と治療社，2017年）
 上好昭孝 他編「リハビリテーション概論 改訂第3版」（永井書店，2014年）

●履修へのアドバイス

授業内容を自分なりにノートにまとめてください。

生命倫理 (全15回)	理学療法士科	1年	通年
	担当教員	村松 哲夫	

●授業概要

★この授業のねらい

生命科学分野は今や多岐に渡り、それぞれにおける発展は目覚ましいものがあります。一方で、従来の思考の枠組みでは扱い切れない問題がたくさんあります。だからといって、茫然自失になっているわけにはいきません。生命科学分野における多岐にわたる問題を我々ほどのように考え、どのようにすべきなのかということ、自分たちの言葉で考え、学びます。それによって、医療者として求められる素養を涵養することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 医学部、看護学部と同水準の生命倫理学の基礎知識を身に付け、説明することができる。
- 2 生命倫理に関する具体的な問題を、すべてではないが、いくつか扱うことによって、問題点の具体像を述べるができる。
- 3 医療者の職業倫理について、生命倫理にまで遡って根本的に理解し、論じることができる。

●授業内容

1	自己紹介 オリエンテーション
2	生命倫理の基本構造
3	インフォームド・コンセント概論
4	インフォームド・コンセントと患者の自律性について
5	ケアと倫理
6	生殖補助医療
7	人工妊娠中絶と出生前診断、着床前診断
8	子どもの医療
9	高齢者医療と認知症
10	終末期医療と尊厳死
11	安楽死と医師による自殺幫助
12	脳死と臓器移植
13	遺伝子医療
14	再生医療
15	生命操作とロボット、脳と心・行動
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、レポート課題、および平常点等によって総合評価します。講義に関係する内容の質問や意見具申も平常点加点の対象とします。

●教科書・参考図書

教科書：霜田求 編「テキストブック 生命倫理」（法律文化社，2018年）
必要に応じて、参考資料、プリントを配付します。

●履修へのアドバイス

臨床に関する知識と倫理的知識・方法論を融合した高度な内容になるので、授業中の集中力の維持と復習に心がけてください。授業中の質問等は歓迎します。

理学療法概論 (全15回)	理学療法士科	1年	前期
	担当教員	長井豊貴 旗手俊彦	

●授業概要

★この授業のねらい

理学療法を取り巻く保健・医療・福祉そして行政の環境変化から理学療法概論も変化している。この授業では理学療法のこれまでの歴史をふまえ、その業務内容を理解し、社会から求められる理学療法士の役割とは何かを考え、自己が目指す理学療法士像の基盤を形成することを目的とします。

★仕上がり像

- 1 理学療法の概念・歴史・倫理・現状・将来展望を説明できる。
- 2 理学療法士の業務・職域・教育体系について説明できる。
- 3 評価・治療を行うとき対象者の立場に立って考え、説明することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション
2	理学療法士の学習過程・内容
3	理学療法の概念と歴史
4	理学療法士の法的位置づけと役割
5	理学療法士に関する法律（医療保険、介護保険）
6	理学療法士に関する法律（障害者総合支援法）
7	理学療法の意義と役割
8	理学療法の対象と障害構造（肢体不自由）
9	理学療法の対象と障害構造（内部障害）
10	理学療法の過程と方法（運動療法・物理療法・ADL）
11	理学療法の過程と方法（評価～治療）
12	理学療法の組織と倫理
13	医療・保健分野の理学療法
14	医療事故とリスクマネジメント、個人情報の管理と対象者の権利
15	理学療法士教育（学生・臨床教育で求められるもの）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験80点と提出課題20点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：千住秀明 監「理学療法学概論 第4版」（神陵文庫，2013年）
 参考図書：細田多穂 監「理学療法入門テキスト」シンプル理学療法学シリーズ
 （南江堂，2007年）
 落合慈之 監「リハビリテーション ビジュアルブック」（学研，2011年）

●履修へのアドバイス

次回の授業予定を毎回提示しますので教科書の指定された範囲を一読してから授業に臨みましょう（予習）。また課題などはしっかりと取り組み、指定された期日までに提出しましょう。

理学療法概論演習 (全15回)	理学療法士科	1年	通年
	担当教員	高間 則昭	

●授業概要

★この授業のねらい

理学療法概論、基礎理学療法で学んだことや社会から求められる理学療法士像および専門職としての立ち振る舞いをより身近に感じるために、体験（障害疑似体験、病院・施設見学）から職業観を構築していきます。また、体験発表を通して主体的に関わろうとする姿勢や表現力も学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 理学療法士の存在意義を分析し、説明できる。
- 2 理学療法対象者の目線で対象者が抱える課題を列举できる。
- 3 理想の理学療法士像に向かって学習する基盤、意欲を持ち実践できる。

●授業内容

1	専門職としての関わり方と体験概要
2	障害疑似体験（脊髄神経損傷、車いす操作）
3	障害疑似体験（まとめ、課題発見と問題解決）
4	障害疑似体験（片麻痺歩行、両松葉杖歩行）
5	障害疑似体験（まとめ、課題発見と問題解決）
6	障害疑似体験（計画）
7	障害疑似体験（学外実施）
8	障害疑似体験（課題発見と問題解決）
9	障害疑似体験（発表）
10	病院・施設見学（計画）
11	病院・施設見学（実施）
12	病院・施設見学（実施）
13	病院・施設見学（統合と解釈）
14	病院・施設見学（発表）
15	理想の理学療法士像の分析と展望

●成績評価のしかた

レポート50点と平常点（発表・提出物等）50点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

作成資料（毎回配付します）

●履修へのアドバイス

体験をとおして一人で悩むより仲間とともに対話し、解決のための感性を磨いていきましょう。また、仲間とともに知恵と工夫を出して新たな取り組みができることを望んでいます。課題への積極的な取り組みをし、提出物の提出期限は厳守してください。

基礎理学療法学 (全15回)	理学療法士科	1年	後期
	担当教員	富永 淳	

●授業概要

★この授業のねらい

理学療法が対象とする「障害」について理解を深める科目です。「障害」に対するとらえ方や考え方は時代とともに変化してきました。その歴史的变化をたどりながら、その時代における「障害像」を紹介し、「障害者」と彼らを取り巻く社会情勢を加味しながら、「ICIDH」のとらえ方から分類までを学び、次に「ICF」の特徴とその考え方やとらえ方が生れたきっかけを考えます。

★仕上がり像

- 1 時代によって変化する「障害」のとらえ方を社会情勢を踏まえながら説明することができる。
- 2 「ICIDH」のとらえ方が生れたきっかけを学び、体験を通して説明することができる。
- 3 「ICF」が生れた経緯を学び、体験を通して説明することができる。
- 4 症例検討を経験することにより、「障害」をICFに当てはめて表現することができる。

●授業内容

1	障害について（歴史の変遷）		
2	障害について（ICIDHの紹介）		
3	ICIDHのとらえ方		
4	ICIDHによる障害分類		
5	ICIDHによる問題点の提示		
6	ICIDHによる問題点の作成演習		
7	障害について（ICFの紹介）		
8	ICFのとらえ方		
9	ICFによる障害分類		
10	ICFによる問題点の提示		
11	ICFによる問題点の作成演習		
12	症例検討（運動器障害）		
13	症例検討（中枢神経障害）		
14	症例検討（在宅療養：高齢者）		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験40点、平常点60点（提出課題の内容と発表 20点×3回）にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：奈良勲 編「理学療法概論 第6版」（医歯薬出版，2013年）
 内山靖 編「標準理学療法学 基礎理学療法学」（医学書院，2006年）
 岡田隆夫 他著「標準理学療法・作業療法学 生理学 第5版」（医学書院，2018年）

●履修へのアドバイス

質問や意見がある場合は、その都度申し出てください。疑問・質問は大歓迎です。必要に応じて資料を配布します。また、グループワークや個人での作業が多くあります。積極的な参加を希望します。

理学療法基礎評価演習Ⅰ (全30回)	理学療法士科	1年	通年
	担当教員	佐藤真貴子 原田大介	

●授業概要

★この授業のねらい

理学療法では基本的な検査・測定から対象者の身体機能を評価し、適切な治療に結びつけていきます。この科目では、理学療法評価の中でも基本的な検査・測定について、その意義、目的および方法を学びます。また、基本的な検査・測定の方法を正しく理解するだけでなく、演習を通して、正確・確実に実施できるように習得します。さらに、各検査・測定の結果から身体機能を推定できるように学習を進めます。

★仕上がり像

- 1 理学療法評価の意義・目的を説明できる。
- 2 各種検査・測定手技を理解し、健常者に実践できる。
- 3 各検査・測定結果から身体機能を推定できる。

●授業内容

1	理学療法評価総論	16	筋力測定 (MMT) (上肢)
2	医療面接 (目的と進め方)	17	筋力測定 (MMT) (上肢)
3	血圧、脈拍測定の目的・意義・手法・記録	18	筋力測定 (MMT) (上肢)
4	血圧、脈拍測定の演習	19	筋力測定 (MMT) (上肢)
5	形態測定の目的・意義・手法・記録	20	筋力測定 (MMT) (下肢)
6	形態測定の演習 (四肢長、周径)	21	筋力測定 (MMT) (下肢)
7	関節可動域検査の目的・意義・手法・記録	22	筋力測定 (MMT) (下肢)
8	関節可動域検査の演習 (上肢)	23	筋力測定 (MMT) (下肢)
9	関節可動域検査の演習 (上肢)	24	筋力測定 (MMT) (頸部、体幹)
10	関節可動域検査の演習 (下肢)	25	筋力測定 (MMT) (まとめ)
11	関節可動域検査の演習 (下肢)	26	反射検査の目的・意義・手法・記録
12	関節可動域検査の演習 (頸部、体幹)	27	反射検査の演習 (腱反射、表在反射、病的反射)
13	関節可動域検査の演習 (頸部、体幹)	28	感覚検査の目的・意義・手法・記録
14	関節可動域検査の演習 (まとめ)	29	感覚検査の演習 (触覚、痛覚、運動覚、位置覚)
15	筋力測定の目的・意義・手法・記録	30	まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験 (筆記、実技) や平常点を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：松澤正 著「理学療法評価学 改訂第6版」(金原出版, 2018年)
津山直一 訳「新・徒手筋力検査法 原著第9版」(協同医書出版, 2014年)
参考図書：細田多穂 監「理学療法評価学テキスト」(南江堂, 2017年)
田崎義昭 他著「ベッドサイドの神経の診かた 第18版」(南山堂, 2016年)

●履修へのアドバイス

生理学、解剖学、運動学などの知識を用いて評価手技へ応用し、実践していく科目です。各種検査・測定手技の演習を効果的に深めるため事前学習をすることが重要です。また、積極的に学生間で人の身体に触れ、人の身体を動かすことに慣れる必要があります。

運動療法総論	(全8回)	理学療法士科	1年	後期
		担当教員	富永 淳	

●授業概要

★この授業のねらい

さまざまな疾患により引き起こされる機能形態障害は、それぞれ治療原則が異なります。機能形態障害の予防から悪化防止のためのアプローチ方法の一つに運動療法があります。大きく日常生活の活動性に影響を及ぼすことを理解したうえで体験を通してそれらの目的と意義を確認し、運動療法を障害学の視点から学びます。

★仕上がり像

- 1 運動が治療に応用できることを理解し、理論的背景を説明できる。
- 2 運動の生体への影響を説明できる。
- 3 運動療法の目的と意義および定義を説明できる。
- 4 関節可動域運動の種類を挙げ、その目的と意義を説明できる。
- 5 筋力の増強方法を挙げて、その目的と意義を説明できる。

●授業内容

1	運動と治療		
2	骨関節運動（ベクトルとモーメント）		
3	関節可動域運動の目的と意義		
4	関節可動域運動の治療計画立案と実践		
5	伸張運動（ストレッチ）の目的と意義		
6	筋力増強運動の目的と意義		
7	筋力増強運動 徒手（治療計画立案と実践）		
8	筋力増強運動 機器（治療計画立案と実践）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験50点、課題提出を含む平常点50点にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：市橋則明 編「運動療法学 第2版 障害別アプローチの理論と実際」
 （文光堂，2018年）
 参考図書：吉尾雅春 編「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版」
 （医学書院，2017年）
 吉尾雅春 編「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第4版」
 （医学書院，2017年）

●履修へのアドバイス

運動自体の基本的な理解と生体への影響を理解するためには、解剖学・生理学の知識が必要となります。また、授業内容も確認を行いながら進みますが、事前に解剖学や生理学の該当する部分の復習をしておいてください。

物理療法 I	(全 15 回)	理学療法士科	1年	後期
		担当教員	原田 大介	

●授業概要

★この授業のねらい

物理療法 I では温熱療法の表在熱と深部加熱の違い、温熱による生体への生理学的作用など物理療法の基礎を学びます。また、実習を通して物理療法で扱う機器の特性を解釈し、適切な機器の使用法についても学びます。

★仕上がり像

- 1 物理療法による生体への生理学的作用機序を説明することができる。
- 2 物理療法が分類でき、適応と禁忌を述べることができる。
- 3 症状に応じた適切な物理療法を選択することができる。
- 4 個々の物理療法の実施上の注意点に配慮して操作することができる。

●授業内容

1	物理療法の概要		
2	熱力学の特性について		
3	温熱療法の生理学的作用		
4	ホットパック療法		
5	パラフィン療法		
6	光線療法 (赤外線・紫外線)		
7	光線療法 (レーザー)		
8	極超短波療法の特性		
9	極超短波療法		
10	超音波療法の特性		
11	超音波療法		
12	水治療法とその生理学的効果		
13	水中運動療法		
14	ホットパック・パラフィン・光線療法の実習		
15	極超短波・超音波・水治療法の実習		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験 (60点)、発表や発言の状況 (20点)、課題提出状況 (20点) により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：日高正巳 他編「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習」(中山書店, 2014年)

●履修へのアドバイス

物理療法とは、物理エネルギーにより生体反応を導き対象者の治療に応用することです。物理療法のメリットは薬剤や手術などと違い安全性が高くリスクが低いことです。物理療法の刺激そのものが治療してくれるわけではなく、その刺激から導かれた生体反応が身体を治癒方向へ持っていきます。この概念を学び、個々の物理療法の機器の特性を把握し、選択できるような視点を持って授業に臨んでください。

地域リハビリテーション I (全8回)	理学療法士科	1年	後期
	担当教員	長井 豊貴	

●授業概要

★この授業のねらい

リハビリテーションのニーズは化学技術、医療技術の進歩、および社会の変化とともに変わり、増大もします。科学・医療技術は再生医療に代表され、社会の変化は地域包括ケアに代表されるものです。多様に変化する社会的ニーズが地域リハビリテーションであると言っても過言ではありません。本科目はその入門編としてリハビリテーションを地域社会の視点に立ち、取り組むべき課題や今後のあり方を学びます。

★仕上がり像

- 1 高齢者・障害者の自立生活について説明できる。
- 2 高齢者・障害者が自立生活するための諸制度を説明できる。
- 3 高齢者・障害者が地域で生活するための社会資源を説明できる。

●授業内容

1	地域リハビリテーションの概念と定義		
2	地域リハビリテーションの目的と基本的活動		
3	地域リハビリテーションと連携について		
4	地域リハビリテーションの時代背景		
5	地域リハビリテーション支援体制と制度		
6	介護保険制度		
7	在宅生活に向けた退院支援		
8	終末期リハビリテーション		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験80点と提出課題20点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：大田仁史 著「地域リハビリテーション原論 Ver. 6」(医歯薬出版, 2014年)

●履修へのアドバイス

次回の授業予定を毎回提示しますので教科書の指定された範囲を一読してから授業に臨みましょう(予習)。また課題などはしっかりと取り組み、指定された期日までに提出しましょう。

臨床実習Ⅰ（見学） （45時間）	理学療法士科	1年	後期
	担当教員	臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

リハビリテーション専門職を目指し、基礎医学分野や理学療法の基礎的な領域の学習過程の中で、実際の臨床現場を見学をして、今後の専門分野への学習への動機付けと意欲の向上を図ります。更に、各医療職場の見学とチームアプローチの見学と体験をします。

★仕上がり像

- 1 各医療従事者の 職域を理解し、説明できる。
- 2 施設の役割と機能を把握して説明できる。
- 3 患者および障害者の実像を見学して今後の学習につなげることができる。
- 4 リハビリテーション専門職としての基本的な心がまえを身に付けることができる。

●授業内容

<p>オリエンテーション・施設見学など リハビリテーション臨床現場の見学 リハビリテーション他部門の見学 臨床現場の見学・各種会議の見学 臨床現場の見学・レポート提出、指導 最終評価 症例報告会の開催（学内）</p>		
--	--	--

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による実習評価（50点）と症例報告会の発表等の学内評価（50点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：ありません。
事前に実習指導者に連絡をして、必要と思われる参考図書や知識を情報として収集してください。

●履修へのアドバイス

社会人としての言動を求められます。学生だという甘えた気持ちは捨ててください。常に積極的に行動するように心がけましょう。臨床実習指導者には、常に「報告」・「連絡」・「相談」を心がけてください。

2019年度 理学療法士科2年 履修科目一覧

科目名	区分	2年		合計時間数
		前期	後期	
ソーシャルスキルⅡ	演習	15	15	30
身体運動機能学実習	実習	15	30	45
運動学演習	演習	30	30	60
病理学概論	講義	15	15	30
内部障害学Ⅱ	講義	30		30
神経障害学Ⅱ	講義	30		30
発達障害学	講義	15	15	30
運動器障害学Ⅱ	講義	30		30
精神障害学	講義	15	15	30
人間工学	講義	30		30
研究方法論	講義		15	15
理学療法基礎評価演習Ⅱ	演習	60		60
運動器障害理学療法評価法	演習	30		30
神経障害理学療法評価法	演習	30		30
発達障害理学療法評価法	講義	15		15
内部障害理学療法評価法	演習	30		30
理学療法総合評価実習	実習	20	25	45
運動器障害理学療法Ⅰ	演習	15	15	30
神経障害理学療法Ⅰ	演習	15	15	30
物理療法Ⅱ	講義	15		15
義肢・装具関連理学療法	演習	15	15	30
発達障害理学療法Ⅰ	演習	15	15	30
発達障害理学療法Ⅱ	講義		15	15
日常生活活動学	講義	15	15	30
日常生活活動学演習	演習	15	15	30
内部障害理学療法Ⅰ	演習	15	15	30
地域リハビリテーションⅡ	講義	15		15
生活環境学	講義	15	15	30
臨床実習Ⅱ(評価)	実習		135	135

※科目名をクリックするとシラバスページにジャンプします。

ソーシャルスキルⅡ (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	佐藤 真貴子	

●授業概要

★この授業のねらい

卒業までに4回の臨床実習があります。臨床実習では、毎日、報告書（デイリーノート等）を書きます。

そのために、医学的な基礎知識・論理的思考・適切な情報収集・専門用語を用いた文章表現や話し方など、多岐にわたる能力を習得します。自分の現状を把握し、これらの力を向上させる手がかりをつかみましょう。

★仕上がり像

- 1 理学療法士の思考過程を理解し、例を挙げて説明できる。
- 2 因果関係を説明する際に、論理的に説明できる。
- 3 専門用語を用いた分かりやすい文章をつくることができる。

●授業内容

1	評価実習とは
2	報告の仕方（レポート、デイリーノート）
3	専門用語を用いた記録：演習 見学したものを記録しよう
4	専門用語を用いた記録：演習 専門用語を正しく使おう
5	専門用語を用いた記録：演習 Wordで入力してみよう 基礎
6	専門用語を用いた記録：演習 Wordで入力してみよう 体裁
7	調べて報告してみよう（文献検索）
8	調べて報告してみよう（引用・参考文献）
9	臨床での思考過程：関節の構造と拘縮
10	臨床での思考過程：膝関節屈曲拘縮(1)
11	臨床での思考過程：膝関節屈曲拘縮(2)
12	臨床での思考過程：膝関節屈曲拘縮(3)
13	臨床での思考過程：筋力低下によりできなくなる動作(1)
14	臨床での思考過程：筋力低下によりできなくなる動作(2)
15	まとめ

●成績評価のしかた

提出物と平常点にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：資料を必要に応じ配付します。

●履修へのアドバイス

理学療法を目指す学生にふさわしい文章を書くための能力は、一朝一夕にはつきません。また、実習に必要なことは、①事実②根拠にしたもの③判断するまでの自分の思考過程を、文章や口頭で報告できる力も含まれます。授業をきっかけにして、論理的思考・文章を書く上でのテクニックを身に付けていきましょう。

身体運動機能学実習 (全23回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	原田大介 山本ともみ	

●授業概要

★この授業のねらい

1年次の「解剖学Ⅰ・Ⅱ」「身体運動機能学」および「運動学」を基に人体の機能構造と作用の知識定着を目的とします。人体の機能構造等の既習内容を深め、模型、触診等から人体に投射し、同定することを学習します。さらにご献体による解剖実習を通して、人体の機能構造における作用について知識を深め、理学療法評価・治療の基礎知識との関連性を学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 人体の機能構造と作用を把握し、説明ができる
- 2 体表（触診）から骨・筋・神経・血管が同定できる。
- 3 解剖実習（ご献体と接する）を通して、生命の尊さと人間の尊厳について、自分の考えを述べるができる。

●授業内容

1	触診（頭・顔面）	16	学外実習（消化器系の確認）
2	触診（頸部・肩甲帯）	17	学外実習（循環器系の確認）
3	触診（肩甲帯）	18	学外実習（呼吸器系の確認）
4	触診（肩甲帯・上腕）	19	学外実習（泌尿器系の確認）
5	触診（前腕）	20	学外実習（中枢・末梢神経系の確認）
6	触診（手）	21	学外実習（頸部、体幹の骨・筋の確認）
7	触診（肋骨）	22	学外実習（上肢の骨・筋の確認）
8	触診（脊柱）	23	学外実習（下肢の骨・筋の確認）
9	触診（骨盤）		定期試験
10	触診（鼠径部・大腿）		
11	触診（下腿・足）		
12	胸腔内の機能構造（肺）		
13	腹腔内の機能構造		
14	骨盤内臓の機能構造・学外実習について		
15	脳・脊髄の機能構造		

●成績評価のしかた

定期試験40点、中間テスト（実技）40点、及び平常点20点（授業・実習態度、提出課題、確認テスト、履修状況等）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：丸山仁司 監「療法士のための体表解剖学」（ガイアブックス，2016年）
 野村巖 著「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版」
 （医学書院，2015年）
 平田幸男 訳「解剖学アトラス 原著第10版」（文光堂，2012年）
 参考図書：相磯貞和 著「ネッター解剖学アトラス 原書第6版」（南江堂，2016年）

●履修へのアドバイス

人体の機能構造と作用等を理解し、ご献体による解剖実習をとおして知識を統合してください。また、模型、触診等から骨・筋を同定することは理学療法評価の一助となるので、主体的に授業に臨みましょう。学外実習では、周囲に迷惑をかけないよう慎重かつ注意深く行動してください。

運動学演習 (全30回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	高間則昭 原田大介	長井豊貴

●授業概要

★この授業のねらい

1年次の運動学で学習したことを基本に日常生活で行われている身体運動の分析方法を学びます。身体運動時、どのような関節運動が現れ、重心はどのように変化するのか、また重力や外力はどのように影響するのかなどの基本事項を中心に実際の身体動作を観察・評価する技術を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 日常生活で使用する身体運動を観察し表現できる。
- 2 身体運動の観察事項を基に外力や重力の影響を考慮し関節運動・筋活動・重心変化等を予測し説明できる。
- 3 結果や考察した内容を他者に論じることができる。
- 4 観察事項・結果・考察を簡潔な文章で記載できる。

●授業内容

1	バイオメカニクス (モーメント)	16	演習(筋力 準備)
2	バイオメカニクス (身体とてこ)	17	演習(筋力 測定)
3	バイオメカニクス (国家試験問題)	18	演習(筋力 解析)
4	骨格筋の構造	19	演習(筋力 考察)
5	筋収縮様式	20	演習(筋力 まとめ)
6	姿勢 (重心)	21	演習(三次元動作解析 準備)
7	姿勢 (姿勢制御)	22	演習(三次元動作解析 測定)
8	歩行 (歩行周期)	23	演習(三次元動作解析 解析)
9	歩行 (関節運動)	24	演習(三次元動作解析 考察)
10	歩行 (筋活動)	25	演習(三次元動作解析 まとめ)
11	演習(バランス 準備)	26	歩行分析(歩行の相分類)
12	演習(バランス 測定)	27	歩行分析(歩行時の筋活動)
13	演習(バランス 解析)	28	歩行分析(歩行時の観察運動)
14	演習(バランス 考察)	29	歩行分析(歩行観察・分析)
15	演習(バランス まとめ)	30	歩行分析(まとめ)
			定期試験

●成績評価のしかた

課題提出状況等90点、平常点10点の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：中村隆一 他著「基礎運動学 第6版 補訂」(医歯薬出版, 2012年)
月城慶一 他訳 「観察による歩行分析」(医学書院, 2005年)

既習の運動学を復習しておきましょう。演習場面では被験者の協力が必要となりますので事前に相談・検討して演習に望むようにしましょう。

病理学概論 (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	曾我部 いづみ	

●授業概要

★この授業のねらい

各系統の疾患に共通の病気の基本概念、病気の本態、原因と成り立ち、経過、転帰などについて、わかりやすく解説します。病変は遺伝子から始まり、細胞、組織の変化へと移り変わります。病的な変化が生体の細胞・組織にどのように生じ、どのような経過をたどって疾病が形成されるか、基本的な概念を学習します。

★仕上がり像

- 1 病変を示す用語とその内容について代表的なものを説明することができる。
- 2 代表的な疾患の病理学的認識を深め、説明することができる。
- 3 主な疾患の病態から回復機構について説明することができる。

●授業内容

1	病理学概論と疾病の一般
2	細胞障害(退行性病変と進行性病変)
3	細胞障害(代謝障害と疾病)
4	老化
5	循環障害(概要と局所循環障害)
6	循環障害(局所循環障害)
7	循環障害(全身循環障害)
8	炎症・感染症(炎症のメカニズムと身体への影響)
9	炎症・感染症(感染症の成立、炎症の分類等)
10	免疫(免疫の概念、免疫に関与する因子・細胞)
11	免疫(免疫反応がもたらす傷害・疾患)
12	腫瘍(腫瘍の定義、形態、良性と悪性腫瘍、命名と分類、悪性腫瘍の進展様式)
13	腫瘍(悪性腫瘍の病期、進行度、悪性腫瘍の疫学、原因等)
14	先天異常・奇形(先天異常とは、遺伝性疾患と染色体異常)
15	先天異常・奇形(奇形の原因・成立時期、環境要因、奇形の種類)
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、平常点等を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：横井豊治 編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版」
(医学書院, 2017年)

●履修へのアドバイス

病理学を学ぶためには、解剖学と生理学の知識が必須です。理解できないことがあったら、まずは解剖生理学に戻り、その後、テキストや教科書を読んで理解するように努めてください。授業は、専門用語が多く、スピードも速いので、病気を知るという心構え・興味を持ってついてきてください。

内部障害学Ⅱ (全15回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	沖田 孝一	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床において経験すると思われる代表的な内科疾患について、その病態、症状、治療について学びます。また、内科疾患に対するリハビリテーションを行う際に、その実践に応用できるように知識を整理します。

★仕上がり像

- 1 代表的な内科疾患の基礎病態を把握し、説明することができる。
- 2 病態と合併症の関連性を説明できる。
- 3 各疾患の治療について説明できる。
- 4 退行性変化および加齢性の変化について説明することができる。

●授業内容

1	消化器疾患（胃疾患、小腸疾患）
2	消化器疾患（大腸疾患総論）
3	肝胆膵疾患（肝・胆・膵の構造と機能）
4	肝胆膵疾患（症候とその生理、肝臓疾患）
5	肝胆膵疾患（胆道疾患、膵疾患）
6	血液疾患（血液の形態と機能）
7	血液疾患（貧血、白血病、出血性疾患）
8	代謝性疾患（代謝調節 肥満症 糖尿病）
9	代謝性疾患（脂質異常症、痛風、骨粗鬆症）
10	内分泌疾患（内分泌腺とホルモンの働き）
11	内分泌疾患（内分泌疾患各論）
12	腎泌尿器疾患（腎の構造と機能 水・電解質代謝）
13	腎泌尿器疾患（腎疾患 尿路系の疾患）
14	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全など
15	老化と高齢者 加齢に伴う形態的・機能的変化
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験と履修状況により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：前田眞治 他著「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 内科学 第3版」
（医学書院，2014年）
参考図書：大内尉義 編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 老年学 第4版」
（医学書院，2014年）

●履修へのアドバイス

内部障害学は臨床医学の基本です。解剖学、生理学、病理学と関連づけて学習するようにしましょう。

神経障害学Ⅱ (全15回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	山本ともみ 内山大輔 吉田嵩 星有理香 吉村亜樹 工藤絵梨果	

●授業概要

★この授業のねらい

中枢神経疾患の各障害について学びます。それぞれの障害が発現する疾患と対応させながら、よりリハビリテーション評価やリハビリテーション治療に結びつための知識を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 中枢神経系各部位の構造・機能と神経症状・症候群を関連づけることができる。
- 2 各障害の特徴を挙げ、発症要因や医学的治療方法について説明ができる。

●授業内容

1	中枢神経系の解剖と機能、神経学的診断と評価
2	中枢神経疾患の画像所見
3	意識障害
4	感覚障害
5	運動障害（錐体路障害）
6	運動障害（錐体外路障害）
7	運動失調
8	認知症
9	失語症・構音障害
10	嚥下障害
11	注意障害・遂行機能障害
12	記憶障害
13	失認
14	半側空間無視
15	失行
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（90点）及び授業への参加態度、課題への取り組みなどの平常点（10点）により総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書：川平和美 編「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版」
（医学書院，2019年）
医療情報科学研究所 編「病気がみえる Vol. 7 脳・神経 第2版」
（MEDIC MEDIA社，2017年）
吉尾雅春 他編「標準理学療法学専門分野 神経理学療法学第2版」
（医学書院，2018年）

●履修へのアドバイス

様々な障害について、覚えることが非常に多い分野です。常に予習復習を心がけ、疑問点などはその場で解決するようにしてください。

発達障害学 (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	星 有理香	

●授業概要

★この授業のねらい

小児発達と小児期の疾患の概要について学び、発達障害の原因と成り立ちを理解するとともに、小児を対象としたリハビリテーションを行う上での基本的な知識を身に付けます。

★仕上がり像

- 1 小児の生理学的、病理学的特徴と、発達に伴う変化について説明できる。
- 2 小児期疾患の診断と治療についての基礎的な知識を身に付け、説明できる。
- 3 小児期の代表的な疾患について、病態・臨床症状・治療の説明ができる。

●授業内容

1	発達障害学概論		
2	診断と治療の概要		
3	新生児・未熟児疾患・分娩麻痺		
4	先天異常と遺伝病		
5	脳性麻痺		
6	進行性筋ジストロフィー		
7	筋炎・重症筋無力症・ミオパシー		
8	感染症・自己免疫疾患・アレルギー		
9	脊髄性筋萎縮症・脊髄小脳変性症		
10	呼吸・循環・消化器の代表的疾患		
11	内分泌・泌尿器・血液の代表的疾患・腫瘍		
12	小児てんかん		
13	神経発達障害		
14	重症心身障害		
15	小児整形疾患		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、平常点（20点）から総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：富田 豊 編集「標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版」（医学書院，2018年）

●履修へのアドバイス

様々な障害について、覚えることが多い分野です。授業内で出る教員の話は積極的にメモを取ってください。人間発達学、内部障害学、神経障害学と関連付けながら学習してください。資料を配布するので、A4ファイルを各自用意してください。

運動器障害学Ⅱ (全15回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	森泉 茂宏	

●授業概要

★この授業のねらい

整形外科疾患のリハビリテーションを行なう上での、基礎科学、診断学、治療学、疾患総論を基礎として学び、リハビリテーション治療に応用できる知識を整理していきます。

★仕上がり像

- 1 運動器障害の働きを中心となる骨、関節、筋、神経の基礎から、その機能や病態との関係を理解し、説明できる。
- 2 整形疾患の診断および治療からリハビリテーションに至る流れを理解し、説明できる。
- 3 代表的な整形外科疾患のアプローチ方法を理解し、リハビリテーションを行なう上での、評価や治療に活かせる知識が習得し、説明できる。

●授業内容

1	整形外科の基礎科学診断総論・治療総論		
2	疾患総論（関節リウマチとその類縁疾患）		
3	疾患総論（代謝性骨疾患・骨腫瘍・先天異常）		
4	疾患総論（循環障害を中心に）		
5	疾患各論（上肢・下肢）		
6	疾患各論（胸椎・腰椎）		
7	外傷学：脊椎損傷・末梢神経損傷		
8	骨折総論・上肢の骨折		
9	下肢の骨折、体幹の骨折		
10	脱臼と捻挫・靭帯損傷		
11	変形性関節症		
12	炎症性疾患		
13	画像診断学		
14	スポーツ障害		
15	熱傷、切断・離断、（まとめ）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、履修状況をもとに総合的に判断します。

●教科書・参考図書

教科書：中村利孝 他監「標準整形外科学 第13版」（医学書院，2017年）

●履修へのアドバイス

情報量が非常に多い科目です。したがって、授業後にノートをまとめるなど常に復習を心がけてください。

精神障害学	(全15回)	理学療法士科	2年	通年
		担当教員	中陳寿枝 菊地雅史	星有理香

●授業概要

★この授業のねらい

統合失調症や気分障害を代表とする精神疾患は慢性に経過するものが多く、長期入院が当たり前だった以前の精神科医療から、患者様が地域で生活し働きながら自立した生活を送ることが当たり前となりつつある今、理学療法士・作業療法士が精神科医療で活躍することが今まで以上に期待されています。本科目では回復を図る上で必要となる精神疾患の病態や症状など基礎知識の習得を目的とします。

★仕上がり像

- 1 精神医学臨床一般について説明することができる。
- 2 主要な精神疾患の症状や病態について説明することができる。

●授業内容

1	精神機能の障害と精神症状		
2	統合失調症の病態		
3	統合失調症の関わり		
4	気分障害の病態		
5	気分障害の関わり		
6	発達障害の病態		
7	発達障害の関わり		
8	てんかんの病態		
9	てんかんの関わり		
10	神経症性障害		
11	摂食障害		
12	パーソナリティ障害		
13	精神作用物質依存障害		
14	薬物療法とは		
15	精神鑑定と精神医療関連の法制度		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（90点）平常点（10点）で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：上野武治 編「標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版」（医学書院，2015年）

参考図書：上島国利 他編「精神医学テキスト 第4版」（南江堂，2017年）

●履修へのアドバイス

授業内で出る教員の話積極的にメモを取り、理解の助けとしてください。資料はA4ファイルにまとめて整理してください。

人間工学 (全15回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	和田 龍彦	

●授業概要

★この授業のねらい

人が何かの目的で行動を起こそうとするとき、必要な道具や物を自由に使うことができ、事故のない安全かつ効率の良い動作環境が必要となります。生体医用工学と安全工学の知識を利用して生体情報の検出や情報処理を行い、また治療機器などの保守管理を習得して機器の安全性を確認することはリハビリテーション分野の医療人にとって重要課題です。授業の前編部では、人の動作や運動と周囲に存在する道具との関わり合いと人体の物性的特徴や生理学的機能を習得します。中編部では生体情報の検出構成とその測定原理ならびに現用医療機器の動作原理を学習します。後編部では医療設備や医療環境の整備および安全管理を学び、最新医療機器の現状把握と問題点の摘出法を習得します。

★仕上がり像

- 1 医学と工学の関係を説明できる。
- 2 医学諸量の物性的内容の説明ができる。
- 3 主要な生体計測機器や治療機器などの概説ができ、新計測法の提案や考察もできる。

●授業内容

1	人の概観と定量的捉え方		
2	力と動作と運動量		
3	体力と代謝と運動		
4	人体の構造と機能		
5	生体物性と医療材料		
6	生体計測の基礎		
7	心電位と心電図		
8	血圧と血流		
9	脳波と筋電図と呼吸計測		
10	音と聴力と超音波診断		
11	ペースメーカーとAEDとFES		
12	最先端の医療技術		
13	医療設備の安全と管理		
14	医用ガスと消毒および感染防止		
15	負の環境因子；科学的負の遺産		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験70%、レポート20%、平常点10%によって総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：特定教科書はありません。各授業内容ごとにプリントを配付します。
参考図書：担当教員が指示します。

●履修へのアドバイス

液晶プロジェクター等の視聴覚教材を使用します。授業後にはノート内容をまとめるなどの復習をしてください。

研究方法論 (全8回)	理学療法士科	2年	後期
	担当教員	高間則昭 山本ともみ	

●授業概要

★この授業のねらい

理学療法分野は、研究活動により常に新たな発見と治療法の確立により進歩しています。質の高い研究によって得られた治療法は、医学系雑誌などの文献を媒介にして臨床で用いられます。つまり、理学療法士として良質な治療法を選択するためには、文献を検索し、内容を理解する能力が必要となります。この科目では、基礎統計の知識および文献の検索・読解を学習します。

★仕上がり像

- 1 基礎統計学を理解し、説明することができる。
- 2 文献検索を自ら行うことができる。
- 3 文献に書かれている内容の理解と必要な知識を習得し、説明できる。

●授業内容

1	研究と理学療法 総論		
2	統計の基礎 集団・平均値・分布・妥当性		
3	統計の基礎 2群間の検定・相関		
4	文献検索のポイント		
5	文献読解のポイント		
6	課題・研究計画の立案		
7	発表(1)		
8	発表(2)		

●成績評価のしかた

課題内容および履修状況により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：内山靖 他編「標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第3版」
(医学書院, 2013年)
理学療法ジャーナル (医学書院)
理学療法 (メディカルプレス)

●履修へのアドバイス

医学系雑誌を読む機会を増やし、書いてある内容を正しく把握し重要な内容を抽出できる能力を身に付けていきましょう。

理学療法基礎評価演習Ⅱ (全30回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	高間則昭 山本ともみ	

●授業概要

★この授業のねらい

この科目では、理学療法基礎評価演習Ⅰで学んだ各種検査・測定を中枢神経障害や運動器障害の模擬患者に実施し、障害像に配慮した検査・測定の方法を学習します。これらの模擬患者に特徴的な動作を模倣、観察し、適切な介助方法を習得します。

★仕上がり像

- 1 理学療法評価手法を説明し、実践できる。
- 2 模擬患者に対して、各種検査・測定ができる。
- 3 模擬患者に対して、動作観察と適切な介助ができる。
- 4 模擬患者に対して、臨床的な観点から適切な検査・測定を選択できる。

●授業内容

1	医療面接・バイタルサイン	16	運動器障害の評価演習 (疼痛)
2	バランスの質的評価	17	運動器障害の評価演習 (まとめ)
3	バランスの量的評価	18	中枢神経障害の評価演習 (筋緊張・腱反射)
4	10m歩行・TUG・CS30・6MD	19	中枢神経障害の評価演習 (病的反射)
5	運動器障害の評価演習 (浮腫・炎症)	20	中枢神経障害の評価演習 (感覚検査)
6	運動器障害の評価演習 (上肢関節可動域検査)	21	中枢神経障害の評価演習 (関節可動域検査)
7	運動器障害の評価演習 (下肢関節可動域検査)	22	中枢神経障害の評価演習 (MMT)
8	運動器障害の評価演習 (上肢 MMT)	23	中枢神経障害の評価演習 (Br. stage)
9	運動器障害の評価演習 (下肢 MMT)	24	中枢神経障害の評価演習 (寝返り)
10	運動器障害の評価演習 (起き上がり)	25	中枢神経障害の評価演習 (起き上がり)
11	運動器障害の評価演習 (立ち上がり)	26	中枢神経障害の評価演習 (床からの起立)
12	運動器障害の評価演習 (移乗・歩行)	27	中枢神経障害の評価演習 (椅子からの起立)
13	運動器障害の評価演習 (荷重検査)	28	中枢神経障害の評価演習 (移乗)
14	運動器障害の評価演習 (免荷歩行)	29	中枢神経障害の評価演習 (歩行の質的評価)
15	運動器障害の評価演習 (感覚検査・反射)	30	まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験 (筆記40点、実技50点) や履修状況10点を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：松澤正 他著「理学療法評価学 改訂第5版」(金原出版, 2016年)
津山直一 著「新・徒手筋力検査法 原著 第9版」(協同医書出版, 2014年)
参考図書：田崎義昭 他著「ベッドサイドの神経の診かた 第18版」(南山堂, 2016年)

●履修へのアドバイス

理学療法基礎評価演習Ⅱは模擬患者に応用した基礎的スキルの実践と正確・確実なスキルの習得を目指しています。各種検査・測定手技を効果的に習得するため、事前学習や自己演習を行い、繰り返し学習による技術の定着を図ることが重要です。

運動器障害理学療法評価法 (全15回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	高間 則昭	

●授業概要

★この授業のねらい

1年次の「身体運動機能学」や「運動学」および「理学療法基礎評価学」で、評価の目的や意義、具体的な内容や方法を学習しました。それらをベースに臨床におけるより具体的で実践的な整形外科領域の疾患に対する評価をリスク管理を含めて学習します。

★仕上がり像

- 1 運動器障害に必要な評価を上げることができる。
- 2 運動器障害の各評価項目の目的と意義を上げることができる。
- 3 各種の検査・測定ができる。
- 4 評価の結果を客観的にとらえ統合と解釈ができる。
- 5 臨床実習に向けて準備から実施までを一人で行うことができる。

●授業内容

1	総論 評価の目的 問診		
2	疼痛・炎症の評価		
3	骨折・脱臼の評価：上下肢		
4	骨折の評価：体幹・高齢者の骨折		
5	末梢神経損傷の概要・評価		
6	関節リウマチの概要・評価		
7	変形性股・膝関節症の概要・評価		
8	人工関節置換術のリスク管理・評価		
9	膝関節損傷（靭帯・半月板）の評価		
10	腰部障害の概要・評価		
11	足関節障害の概要・評価		
12	頸・肩関節障害の概要・評価		
13	スポーツ障害の概要・評価		
14	画像初見について		
15	整形外科検査法の復習		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90点と平常点10点（履修状況および課題の提出状況など）の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：高柳清美 他著「運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版」（南江堂，2016年）
 竹内義亨 他著「目で見える運動機能検査法」（南江堂，2005年）
 参考図書：斉藤明義 他著「写真で学ぶ整形外科テスト法 増補改訂新版」（医道の日本社，2004年）
 河村廣幸 編「理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ」（中山書店，2011年）

●履修へのアドバイス

運動器障害の理学療法で、注意が必要なことは「痛み」「筋力低下」「関節可動域障害」から波及しADLの障害として表れることを把握することです。いろいろな情報を得るために実施する評価を系統的にまとめていきます。

神経障害理学療法評価法 (全15回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	山本 ともみ	

●授業概要

★この授業のねらい

中枢神経障害の理学療法では、筋力・関節可動域などの一般的な評価に加えて、中枢神経系が破綻することによって生じる特異的な障害に対しての定性的あるいは定量的な評価を行うことが重要になります。この科目では、中枢神経系の破綻によって生じる各種障害に対しての評価方法を、講義や演習を通して学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 中枢神経障害の一般的な評価や各種障害に対する評価を立案し、それぞれの意義・目的・注意点等を説明できる。
- 2 中枢神経疾患に用いられる各種評価を実際に行うことができる。
- 3 中枢神経疾患に対する評価結果を解釈し説明することができる。

●授業内容

1	中枢神経疾患の理学療法とは		
2	意識障害		
3	脳神経検査		
4	協調性検査		
5	座位・立位姿勢観察		
6	起居動作観察		
7	歩行観察		
8	運動機能検査 (12段階階麻痺検査)		
9	運動機能検査 (S I A S)		
10	高次脳機能障害と理学療法		
11	呼吸機能検査		
12	血液生化学検査結果の診方		
13	評価の流れ		
14	評価計画の立案		
15	立案した計画の実施		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験 (筆記40点、実技40点) や平常点 (履修状況、課題提出など20点) を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：吉尾雅春 編「標準理学療法学専門分野 神経理学療法学 第2版」(医学書院, 2018年)

医療情報科学研究所 編「病気が見える Vol. 7 脳・神経 第2版」(MEDIC MEDIA社, 2017年)

参考図書：松澤正 他著「理学療法評価学 第5版」(金原出版, 2016年)

田崎義昭 他著「ベッドサイドの神経の診かた 第18版」(南山堂, 2016年)

●履修へのアドバイス

中枢神経障害の評価方法を効率よく学ぶためには、中枢神経疾患患者の障害像を的確に捉える必要があります。解剖学・生理学・神経障害学の知識に基づき、理学療法を行う根拠となる評価の考え方を学ぶとともに、反復練習により技術を習得していきます。

発達障害理学療法評価法 (全8回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	井上 秀美	

●授業概要

★この授業のねらい

小児期は、日々どんどん成長発達し変化していきます。変化に富む小児期の特徴やとらえ方などを学習します。理学療法士が用いる評価手技や検査・測定方法について紹介し、正常をまず把握し、その後発達障害について学習します。

★仕上がり像

- 1 正常発達の段階を把握し、説明できる。
- 2 発達障害に関する評価を挙げることができる。
- 3 各評価項目の目的と意義を説明できる。
- 4 各評価を実施できる。

●授業内容

1	療育総論～脳性まひ		
2	正常運動発達・脳性まひの評価		
3	正常運動発達と異常運動発達		
4	脳性まひの評価と理学療法		
5	発達評価(姿勢反射、ICF)		
6	発達評価(片麻痺児、四肢麻痺児)		
7	発達評価(両麻痺児、アテトーゼ)		
8	統合と解釈および問題点の抽出		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験や履修状況などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：田原弘幸 編「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版」(南江堂, 2018年)
 参考図書：五味重春 編「脳性麻痺」(医歯薬出版, 2004年)
 高橋孝文 訳「乳児の発達」(医歯薬出版, 2003年)
 千住秀明 他著「こどもの理学療法 第2版」(神陵文庫, 2007年)

●履修へのアドバイス

まず正常発達を把握します。各評価項目は相互に関連し合い、独特の障害像を呈します。発達に伴い、さまざまに変化し影響を及ぼしあいながら成長するため、障害を把握することが非常に大切になります。

内部障害理学療法評価法 (全15回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	中田由香梨 近藤和夫 富永淳	

●授業概要

★この授業のねらい

「内部障害学」で学んだ疾患について、呼吸器系疾患・循環器系疾患・代謝系疾患に大きく分けて、その障害像から検査項目を紹介し目的を意義を把握します。また検査結果について考察を重ねて問題を抽出でき、理学療法の治療計画の立案までの流れを学びます。

★仕上がり像

- 1 循環器系、呼吸器系、代謝系について、その正常状態を維持する要素を説明できる。
- 2 循環器系、呼吸器系、代謝系の働きとそれを読み取ることができる評価項目を選択できる。
- 3 各評価項目の異常が、どの部分のどのような変化を示しているのかを説明できる。

●授業内容

1	呼吸器の解剖と運動の仕組み・肺とガス交換		
2	呼吸器疾患の紹介 (障害像)		
3	呼吸機能検査・胸部画像のみかた		
4	呼吸理学療法評価 (視診と触診)		
5	呼吸理学療法評価 (聴診と打診)		
6	呼吸理学療法評価 (呼吸困難の評価)		
7	呼吸理学療法評価 (運動耐容能の評価)		
8	循環器系の構造と機能		
9	心電図・不整脈の診かた		
10	血圧測定など・モニタリングの実際		
11	エネルギー代謝と栄養		
12	運動耐容能とその評価		
13	心肺運動負荷試験 (実技)		
14	代謝疾患の病態と評価 (糖尿病)		
15	代謝疾患の病態と評価 (他の疾患)		
	定期試験		

●成績評価のしかた

筆記試験95点と平常点 (課題提出など) 5点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：
 高橋仁美 他著「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版」(中山書店, 2016年)
 木村雅彦 編「15レクチャー理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版」(中山書店, 2017年)
 岡田隆夫著「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版」(医学書院, 2013年)

●履修へのアドバイス

内部障害の病態を復習して授業に臨みましょう。履修後は様々な疾患による障害の特性を理学療法と結び付けるように復習を心がけましょう。

理学療法総合評価実習 (全23回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	佐藤真貴子 原田大介	

●授業概要

★この授業のねらい

この科目は問題基盤型学習 (PBL : problem-based learning) を通じ、グループ学習を中心に紙面上症例を用いた臨床評価を行う過程で、理学療法士に必要なとされる知識の整理・推論思考・メタ認知・自己学習能力・コミュニケーション能力の統合的な力を育むことを目標とします。また、設定された症例について理学療法評価の流れを演習経験することで評価の計画立案・評価実技の実践を行い、その振り返りをグループ内で討議することで、臨床実習Ⅱ (評価実習) 開始までに個々が越えなければならない課題を確認し、その課題に対する取り組みができることを目指します。

★仕上がり像

- 1 紙面上の症例に対し疾患の理解を深め、必要な評価項目の選定ができる
- 2 評価項目に優先順位をつけ、評価計画を立案することができる。
- 3 決められた時間内に模擬患者に対し評価を実施できる。
- 4 統合と解釈を体験する中で、理学療法に必要な臨床思考過程を理解し、説明できる。

●授業内容

1	オリエンテーション・理学療法評価とは	16	神経障害 (評価の実践①)
2	運動器障害 (疾患の理解)	17	神経障害 (評価の実践②)
3	運動器障害 (問題の仮説—評価の意義)	18	神経障害 (検査データのアセスメント①)
4	運動器障害 (評価項目の選定)	19	神経障害 (検査データのアセスメント②)
5	運動器障害 (評価計画の立案)	20	神経障害 (統合と解釈)
6	運動器障害 (評価の実践①)	21	神経障害 (まとめ)
7	運動器障害 (評価の実践②)	22	OSCEとは
8	運動器障害 (検査データのアセスメント①)	23	OSCEの実践
9	運動器障害 (検査データのアセスメント②)		
10	運動器障害 (統合と解釈)		
11	運動器障害 (まとめ)		
12	神経障害 (疾患の理解)		
13	神経障害 (問題の仮説—評価の意義)		
14	神経障害 (評価項目の選定)		
15	神経障害 (評価計画の立案)		

●成績評価のしかた

提出課題60点、実技試験30点、平常点10点の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：資料を必要に応じて配付します。

参考図書：内山靖 編「標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第2版」(医学書院, 2004年)
津山直一 訳「新・徒手筋力検査法 第9版」(協同医書出版, 2014年)
田崎義昭 他著「ベッドサイドの神経の診かた 第18版」(南江堂, 2016年)

●履修へのアドバイス

臨床実習では、理学療法士が何を根拠に・どう考えて・判断しているのかを学びに行きます。その前に、学内で一連の流れを演習し、自分の課題を整理しましょう。自分の課題に対し、未来の自分のために努力することが「自分を大切にすること」につながります。「どんな大人」になりたいかも併せて考える期間としてください。

運動器障害理学療法 I (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	高間 則昭	

●授業概要

★この授業のねらい

これまで「運動器障害学」をはじめ、理学療法評価に関する授業で障害の成り立ちから障害像までを学び、理学療法士が評価を基に、問題点を挙げ、治療計画を立案し、治療を実施する過程と実際の治療内容の精査を含めて学びます。この科目では、代表的な運動器障害を挙げ、理学療法の評価から治療計画までをリスク管理を含めて学習します。

★仕上がり像

- 1 運動器障害の評価結果を考察でき、問題点を挙げ、治療計画を立案できる。
- 2 各運動器障害別に評価結果を考察でき、問題点を挙げ、治療計画を立案できる。
- 3 各運動器障害に対する理学療法を実施する際のリスク管理を挙げることができる。
- 4 各運動器障害に最適な治療を選択することができる。

●授業内容

1	総論 理学療法介入の目的と原則		
2	筋力増強運動		
3	関節可動域練習・ストレッチ		
4	股関節疾患の問題点抽出		
5	股関節疾患の理学療法		
6	膝関節疾患の問題点抽出		
7	膝関節疾患の理学療法		
8	体幹疾患の問題点抽出		
9	体幹疾患の理学療法		
10	肩関節疾患の問題点抽出		
11	肩関節疾患の理学療法		
12	リウマチの理学療法		
13	脊髄損傷の概要・評価		
14	脊髄損傷の問題点抽出		
15	脊髄損傷の理学療法		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90点および平常点10点（提出課題の状況や履修状況など）の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：高柳清美 他著「運動器障害理学療法テキスト 改訂第2版」
（南江堂，2016年）
竹内義亨 他著「目で見える運動機能検査法」 （南江堂，2005年）

参考図書：内田淳正 他著「標準整形外科学 第13版」 （医学書院，2017年）
河村廣幸 編「理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I・II」
（中山書店，2011年）

●履修へのアドバイス

疾患の特性を理解し評価項目がなぜ必要なのか評価の意義を理解したうえで、評価結果を考察することによって問題点を抽出しリスクに留意しつつ治療計画を立案しましょう。

神経障害理学療法 I (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	山本 ともみ	

●授業概要

★この授業のねらい

脳血管疾患患者が呈する代表的な障害の成り立ちと、その障害に対する理学療法の一連の流れや考え方を学びます。最終的には、必要な評価の選択、問題点抽出、プログラム作成までを行い、一般的な治療プログラムを実施します。

★仕上がり像

- 1 脳血管疾患で生じる各種障害の成り立ちと理学療法の考え方について理解し、説明できる。
- 2 脳血管疾患の病期に準じた理学療法士の役割や考え方を理解し、説明できる。
- 3 脳血管疾患患者に対して適切な評価を選定し、得られた評価結果から問題点を抽出できる。
- 4 脳血管疾患患者に対して得られた問題点に準じた治療プログラムを立案し実施できる。

●授業内容

1	脳血管疾患患者の評価のまとめ		
2	脳血管疾患患者の目標設定の考え方		
3	脳血管疾患患者の治療プログラム立案方法		
4	脳血管疾患患者の病期と理学療法		
5	脳血管疾患患者の関節可動域練習		
6	脳血管疾患患者の筋力強化		
7	脳血管疾患患者の痛みと理学療法		
8	感覚障害と理学療法		
9	運動失調と理学療法		
10	脳血管疾患患者の座位・立位バランス		
11	脳血管疾患患者の起居動作練習		
12	脳血管疾患患者の起立移乗動作練習		
13	脳血管疾患患者の歩行練習		
14	重複障害患者の治療の考え方		
15	脳血管疾患患者の理学療法のまとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（筆記40点、実技40点）や平常点（履修状況、課題提出など20点）を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：吉尾雅春 編「標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学」（医学書院，2018年）
医療情報科学研究所 編「病気がみえる Vol. 7 脳・神経 第2版」（MIDIC MEDIA社，2017年）

●履修へのアドバイス

神経理学療法評価法等の授業で習得した知識と技術をもとに、どのような障害にどのような治療手技が適応となり、どのような結果を期待するかを自ら考えながら学習していきます。患者さんの障害像をイメージできるように普段から観察の眼を持つよう心がけましょう。

物理療法Ⅱ	(全8回)	理学療法士科	2年	前期
		担当教員	原田 大介	

●授業概要

★この授業のねらい

物理療法Ⅱでは物理療法Ⅰで学んだ熱エネルギー以外の機械的・電氣的エネルギーの生体に及ぼす作用について学びます。牽引療法、寒冷療法、電気刺激療法それぞれのエネルギーの特性から運動療法と併用した適切な物理療法を選択し、実施ができ、リスク管理を身に付けていきます。

★仕上がり像

- 1 物理療法による生体への生理学的作用機序を説明することができる。
- 2 物理療法が分類でき、適応と禁忌を述べるすることができる。
- 3 症状に応じた適切な物理療法を選択することができる。
- 4 個々の物理療法の実施上の注意点に配慮した操作ができる。

●授業内容

1	牽引療法		
2	寒冷療法		
3	電気刺激療法の概要		
4	治療的電気刺激療法		
5	経皮的電気刺激療法		
6	機能的電気刺激療法		
7	バイオフィードバック療法・他		
8	物理療法機器の操作と実際 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（60点）、発表や発言の状況（20点）、課題提出状況（20点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：日高正巳 他編「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習」（中山書店、2014年）

●履修へのアドバイス

物理エネルギーにより生体反応を導き対象者の治療に応用する視点を持ち、個々の物理療法の機器の特性を把握し、選択できるような分析力を磨いていきましょう。

義肢・装具関連理学療法 (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	富永 淳	

●授業概要

★この授業のねらい

リハビリテーション医療における義肢および装具の役割は大変重要で、本来のリハビリテーション医療の概念そのものと言っても過言ではありません。義肢と装具の治療方法はもっとも科学的に分析できることを学習します。

★仕上がり像

- 1 義肢・装具の使用（処方）目的を説明できる。
- 2 義肢・装具を使用することで発揮される効果を予測・判断できる。
- 3 リハビリテーション機器の種類を挙げ、使用（処方）目的を把握できる。
- 4 リハビリテーション機器の効果を予測・判断できる。
- 5 障害の状態に合わせて最適な義肢・装具を選択することができる。

●授業内容

1	リハビリテーション機器（車椅子）		
2	リハビリテーション機器（歩行補助具）		
3	装具 総論（運動学・構造と機能）		
4	下肢装具（短下肢・長下肢・靴型）		
5	下肢装具のチェックアウト作業		
6	上肢装具（肩・肘・手・手指）		
7	上肢装具のチェックアウト作業		
8	体幹装具（頸部・胸部・腰部・側弯症）		
9	体幹装具のチェックアウト作業		
10	義肢 総論（原因・切断術・治療）		
11	切断 評価と管理法		
12	義足 総論（継手・ソケット）		
13	義足（大腿・下腿・股・膝・サイム）		
14	義足（アライメント作業）		
15	義足（異常歩行）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90点、平常点（提出課題など）10点にて総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：磯崎弘司 他編「義肢装具学テキスト 改訂第3版」（南江堂，2017年）
 参考図書：日本整形外科学会 他監「義肢装具のチェックポイント 第8版」（医学書院，2014年）
 川村次郎 他編「義肢装具学 第4版」（医学書院，2009年）
 飛松好子 他編「装具学 第4版」（医歯薬出版，2013年）
 永富史子 編「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト義肢学」（中山書店，2011年）
 佐竹将宏 編「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト装具学」（中山書店，2011年）

●履修へのアドバイス

基本原理を把握し、教科書や参考書で特徴をとらえ、実際の装具やリハビリテーション機器および義肢を観察したり使用することで知識をより確実なものにしましょう。

発達障害理学療法Ⅰ (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	井上 秀美	

●授業概要

★この授業のねらい

障害を生まれながらに持っている発達段階にある子供たちを対象とする理学療法を学習します。脳性麻痺に対する理学療法の考え方、障害のとらえ方や具体的な評価の仕方から治療方法までを一貫して学習します。

★仕上がり像

- 1 発達段階を理解・説明することができる。
- 2 脳性麻痺の原因および分類、その病態や障害像を説明することができる。
- 3 神経生理学的アプローチの概念を把握し、説明することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション・発達障害と運動障害
2	正常発達と異常発達（マイルストーン）
3	正常発達と異常発達（姿勢反射及び反応）
4	正常発達と異常発達（運動発達の遅延と解離）
5	正常発達と異常発達（運動発達の特徴）
6	脳性麻痺の原因と特徴・分類
7	脳性麻痺の評価と治療（評価概論）
8	脳性麻痺の評価と治療（評価項目の選択）
9	脳性麻痺の評価と治療（観血的治療と装具）
10	脳性麻痺の治療 ボイタ法(反射性移動運動の要素)
11	脳性麻痺の治療 ボイタ法(反射性寝返り相と反射性腹這い相)
12	脳性麻痺の治療 ボバース法(概論)
13	脳性麻痺の治療 ボバース法(NDT：神経発達学的治療法)
14	脳性麻痺の治療 ボバース法(NDTと正常運動発達)
15	まとめ 定期試験

●成績評価のしかた

定期試験と履修状況により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：田原弘幸 編
「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版」（南江堂，2018年）

参考図書：五味重春 編「脳性麻痺」（医歯薬出版，2004年）
高橋孝文 訳「乳児の発達」（医歯薬出版，2003年）
千住秀明 他著「こどもの理学療法 第2版」（神陵文庫，2007年）

●履修へのアドバイス

積極的な授業参加をお願いします。

発達障害理学療法Ⅱ (全8回)	理学療法士科	2年	後期
	担当教員	井上 秀美	

●授業概要

★この授業のねらい

胎生期あるいは出生時に障害を有している子どもたちの理学療法の実際について学びます。私たちと同じように体を動かしたり、学校に通ったりする生活などの経験が少ないままに、成長する子どもたちへの理学療法は「療育」と呼ばれて発展を遂げています。発達障害に対する基本的な考え方やその障害のとらえ方など、評価から治療までを学習します。

★仕上がり像

- 1 発達過程における障害のとらえ方と、成長への影響や障害像を説明できる。
- 2 小児特有の疾患の原因および分類、その病態や障害像を説明できる。
- 3 発達障害理学療法の基本的な考え方を理解し、説明できる。
- 4 発達障害理学療法の原則を説明しながら、評価項目を選択できる。
- 5 発達障害理学療法の評価をふまえ、治療シミュレーションができる。

●授業内容

1	小児疾患の理学療法評価・治療		
2	小児整形外科疾患について		
3	精神遅滞児について		
4	筋ジストロフィーについて		
5	重症心身障害児について		
6	呼吸機能の発達と小児期における呼吸障害		
7	障害児の療育体系と地域リハビリテーション		
8	小児理学療法の最近の動向		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験と履修状況により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：田原弘幸 編
「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版」(南江堂, 2018年)

参考図書：五味重春 編「脳性麻痺」(医歯薬出版, 2004年)
高橋孝文 訳「乳児の発達」(医歯薬出版, 2003年)
千住秀明 他著「こどもの理学療法 第2版」(神陵文庫, 2007年)

●履修へのアドバイス

積極的な授業参加をお願いします。気を引き締めて行ってください。

日常生活活動学 (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	原田 大介	

●授業概要

★この授業のねらい

基本的な日常生活活動のみかたと、基本動作の介助法を学びます。身体機能だけでなく、環境によって動きが変わることを学びます。

★仕上がり像

- 1 姿勢・動作観察をして文章化し、姿勢・動作遂行に必要な要素を整理することができる。
- 2 基本的な介助の方法を理解し、健常者で実施することが理解し説明できる。
- 3 ADLの評価方法と使用される評価バッテリーを理解し説明できる。
- 4 基本動作能力と環境の相互関係で人間の活動が変化することを理解し説明できる。

●授業内容

1	総論 ADLとは		
2	ADL評価(評価の目的とポイント)		
3	ADL評価(各ADL動作の特徴)		
4	ADL評価(身の回り動作, 評価バッテリー)		
5	ADL動作と環境の分析(環境評価): 演習		
6	ADL動作と環境の分析(基本動作): 演習		
7	ADL動作と環境の分析(移動動作): 演習		
8	ADL動作と環境の分析(排泄動作): 演習		
9	杖の種類と歩行様式(歩行補助具の種類)		
10	杖の種類と歩行様式(杖と杖歩行)		
11	介助法(基本動作)		
12	介助法(起き上がり・移乗動作)		
13	ADL指導—応用行動分析とは		
14	ADL指導—応用行動分析の技法		
15	ADL指導—応用行動分析の活用		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験(60点)および提出課題状況(20点)、発表や発言の状況等(20点)を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書: 橋元隆 他編「理学療法学テキスト V 日常生活活動(ADL) 第2版」
(神陵文庫, 2007年)

●履修へのアドバイス

機能障害の改善を着実に動作の改善に結び付け、さらに生活動作に定着させていくことが理学療法士の仕事です。生活動作をみるポイントや、予後に応じて代償動作や生活環境の工夫を取り入れていくことを学びましょう。

日常生活活動学演習 (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	佐藤真貴子 原田大介 山本ともみ	

●授業概要

★この授業のねらい

疾患別に、日常生活活動について必要な指導や介助方法を学びます。また、演習を通して実際に体験し障害像のイメージを膨らませることで、日常生活活動指導を適切に行えるようになることを目標とします。様々な視点で日常生活活動を捉え、体験・学習しましょう。

★仕上がり像

- 1 日常生活で行なわれる活動を見直し、動作遂行に必要な能力を理解し、説明できる。
- 2 各種障がいに適した日常生活活動指導と介助の方法を理解し、実践できる。
- 3 基本動作能力と環境の相互関係で人間の活動が変化することを理解し、説明できる。
- 4 提示された症例について統合と解釈を経験し、そのつながりを理解し説明できる。

●授業内容

1	運動器疾患患者の身の回り動作指導		
2	片麻痺患者の身の回り動作指導		
3	脊髄損傷患者の身の回り動作指導		
4	内部障害患者・高齢者の身の回り動作指導		
5	ADLの実践（評価項目抽出①）		
6	ADLの実践（評価項目抽出②）		
7	ADLの実践（実際の評価①）		
8	ADLの実践（実際の評価②）		
9	ADLの実践（実際の評価③）		
10	ADLの実践（実際の評価④）		
11	ADLの実践（統合と解釈①）		
12	ADLの実践（統合と解釈②）		
13	ADLの実践（統合と解釈③）		
14	ADLの実践（症例報告）		
15	まとめ		

●成績評価のしかた

小テスト、提出課題、平常点の総合的評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：橋元隆 他編「理学療法学テキスト V 日常生活活動(ADL) 第2版」
(神陵文庫, 2007年)

●履修へのアドバイス

疾患別の日常生活活動を学び、また今まで学んだ知識を使って、症例の生活動作と機能面の検査との関連付けを体験しましょう。さらに疾患や経過、生活歴などから「そのひと」をみつけていく経験をし、理学療法士の思考過程を学ぶ一端としてください。

内部障害理学療法 I (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	中田由香梨 近藤和夫 富永淳	

●授業概要

★この授業のねらい

わが国の身体障害者は約350万人で、内部障害が約30.7%を占めています。年々その割合は増え続けています。したがって内部障害への対応は、理学療法士にとって今後ますます重要な課題となり積極的な取り組みが必要です。内部障害に対して理学療法士はどのように介入すればよいかを、代表的疾患を挙げ具体的に学習します。

★仕上がり像

- 1 呼吸器疾患の病態を理解し、理学療法の治療計画を立案できる。
- 2 代謝疾患の病態を理解し、理学療法の治療計画を立案できる。
- 3 循環器疾患の病態を理解し、理学療法の治療計画を立案できる。

●授業内容

1	呼吸理学療法評価 (まとめ)
2	コンディショニング (リラクゼーション)
3	コンディショニング (胸郭可動域練習)
4	コンディショニング (排痰手技)
5	コンディショニング (呼吸法・呼吸筋の強化)
6	呼吸理学療法基本手技 運動療法
7	生活習慣病に対する理学療法
8	糖尿病に対する理学療法
9	腎疾患に対する理学療法
10	心臓リハビリテーション総論
11	循環器疾患患者の評価
12	心管理理学療法の実際 (評価)
13	心管理理学療法の実際 (治療)
14	虚血性心疾患 (心筋梗塞)
15	虚血性心疾患 (狭心症)
	定期試験

●成績評価のしかた

筆記試験95点と平常点 (課題提出等) 5点により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書:

高橋仁美 他著

「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版」 (中山書店, 2016年)

木村雅彦 編

「15レクチャー理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版」

(中山書店, 2017年)

●履修へのアドバイス

授業の前には「内部障害学」と「内部障害理学療法評価法」の復習を行ってください。呼吸・循環・代謝に関する知識の整理と重要用語は把握しておきましょう。

地域リハビリテーションⅡ (全8回)	理学療法士科	2年	前期
	担当教員	杉田恵子 仙野堅太	

●授業概要

★この授業のねらい

施設で生活している障害者や高齢者がどのような生活をして地域活動を営んでいるのかりハビリテーションの視点から学んでいきます。

★仕上がり像

- 1 高齢者・障害者が施設や地域でどのような生活や活動をしているかを説明できる。
- 2 高齢者施設における高齢者の生活機能について説明できる。
- 3 どのような高齢者施設があるか説明できる。

●授業内容

1	高齢者リハビリテーションと介護		
2	高齢者の医療に関する法律と健康増進法		
3	介護老人保健施設の機能・基本理念		
4	介護老人保健施設におけるリハビリテーション		
5	介護福祉施設における理学療法士の役割		
6	その他高齢者施設の概況と役割		
7	通所リハ・通所介護における理学療法士の役割		
8	介護予防の概要とケアマネジメント		

●成績評価のしかた

課題提出状況と履修状況で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：備酒伸彦 他編
「地域リハビリテーション学テキスト 第3版」(南江堂, 2018年)

●履修へのアドバイス

高齢者や障害者の施設生活と理学療法士の関わりについて、しっかり学んでください。

生活環境学 (全15回)	理学療法士科	2年	通年
	担当教員	杉田 恵子	

●授業概要

★この授業のねらい

リハビリテーションサービスの提供により獲得された対象者の機能・能力を最大限発揮できる環境とは何か？を考えていきます。理学療法士として、対象者の生活環境について責任ある判断ができるような考え方の基礎をこの科目で身に付けると同時に、環境を整えるために、多職種・多業種が連携をつくる重要性についての理解を図ります。必要に応じて情報を収集し、整理し、利用することができることを目的に課題に取り組みます。

★仕上がり像

- 1 生活環境学の概略や意義を説明することができる。
- 2 利用者に合わせた住環境のあり方・住宅改修方法を考え説明することができる。
- 3 主だった住環境整備に必要な福祉用具の種類・使用目的を説明することができる。
- 4 利用者に合わせた在宅復帰に必要な住宅環境整備の立案することができる。

●授業内容

1	高齢者を取り巻く社会状況と住環境		
2	障害者を取り巻く社会状況と住環境		
3	障害のとらえ方と自立支援のあり方		
4	高齢者の心身の特性		
5	障害者の心身の特性		
6	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備(1)		
7	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備(2)		
8	障害別にみた福祉住環境整備		
9	相談援助の考え方と実践的な進め方(1)		
10	相談援助の考え方と実践的な進め方(2)		
11	福祉住環境整備の基本技術(1)		
12	福祉住環境整備の基本技術(2)		
13	福祉住環境整備実践に必要な住宅の基礎知識		
14	福祉用具に関する性能と活用方法		
15	実践問題		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験と平常点を総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：東京商工会議所 編「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂5版」
(東京商工会議所, 2019年)

●履修へのアドバイス

この授業では、疾患と環境の関係を学ぶことはもちろんですが、演習を通して、自分たちで発見した問題を自分たちで解決する方法を学びます。リハビリテーションの答えは一つではありません。正解を待つのではなく、自分達で「よりよいもの探し」に向かって動けるようになりましょう。また、11月にある福祉住環境コーディネーター2級試験を受験するため助けになる知識も学ぶので、頑張りましょう。

臨床実習Ⅱ（評価）	（135時間）	理学療法士科	2年	後期
		担当教員	臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

1年次の見学実習で得られた知識や経験の上に、さらに専門知識を蓄えて、実際の臨床場面において評価の手段である検査・測定に関する実習を行います。

★仕上がり像

- 1 医療従事者としての態度や信頼関係の構築、専門職としての自覚を持つことができる。
- 2 正確な技法により、客観性・再現性のある評価（検査・測定）を行うことができる。
- 3 得られた多くの情報に対する正しい分析を行うことができる。
- 4 得られた評価結果から適切な治療計画を立案することができる。

●授業内容

<p>オリエンテーション・院内見学など</p> <p>症例を担当、事前準備</p> <p>初期評価の開始</p> <p>まとめのレポート提出・指導</p> <p>本校専任教員巡回訪問</p> <p>評価の継続と確認作業</p> <p>まとめのレポート提出・指導</p> <p>実習のまとめ作業</p> <p>評価実習の最終評価</p> <p>症例報告会の開催（学内）</p>		
---	--	--

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による実習評価(50点)と症例報告会の発表等(50点)により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：ありません。
事前に実習指導者に連絡をとり、必要と思われる参考図書や知識を情報として収集してください。

●履修へのアドバイス

社会人としての言動を求められます。学生だという甘えた気持ちは捨ててください。
常に積極的に行動するように心がけましょう。
1人で解決しようとしないで、すぐ相談や報告を行うようにしましょう。

2019年度 理学療法士科3年 履修科目一覧

科目名	区分	3年		合計時間数
		前期	後期	
医療関係法規	講義	15		15
理学療法障害学特論Ⅰ	演習	30	30	60
理学療法障害学特論Ⅱ	講義	30	30	60
理学療法管理学	講義		15	15
運動器障害理学療法Ⅱ	講義	15		15
神経障害理学療法Ⅱ	講義		15	15
内部障害理学療法Ⅱ	講義	15		15
理学療法特論Ⅰ	講義	15	15	30
理学療法特論Ⅱ	講義	15	15	30
理学療法特論Ⅲ	講義	15	15	30
地域リハビリテーションⅢ	講義	15		15
地域理学療法	講義	15		15
臨床実習Ⅲ(総合)	実習	315		315
臨床実習Ⅳ(総合)	実習		315	315

医療関係法規 (全8回)	理学療法士科	3年	前期
	担当教員	旗手 俊彦	

●授業概要

★この授業のねらい

- 1 医療・保健・福祉に関する法制度と現代的問題について理解を得ます。
- 2 国家試験の医療関係法規問題を取り上げます。

★仕上がり像

- 1 医療・保健・福祉に関する法制度について基礎的知識を身に付け説明できる。
- 2 諸制度の問題点について現場から問題提起し改革案を提示する姿勢を身に付け、実践できる。
- 3 国家試験の医療関係法規に関する問題について全問正解することができる。

●授業内容

1	医療従事者資格/理学療法士・作業療法士法		
2	医療施設・医療供給体制		
3	医療保険制度		
4	診療報酬		
5	年金制度・介護保険		
6	高齢者医療・福祉		
7	障害者福祉		
8	国家試験・まとめ 定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、課題提出及び履修状況によって総合的に評価します。

●教科書・参考図書

特に教科書は指定せず、毎回授業時に、プリント資料を配付します。

●履修へのアドバイス

配付するプリントを各自できちんとファイルにまとめてください。

理学療法障害学特論 I (全30回)	理学療法士科	3年	通年
	担当教員	富永淳 山本ともみ 井上秀美 曾我部いずみ 竹下悠哉	

●授業概要

★この授業のねらい

今まで学んできた基礎医学、臨床医学、基礎専門科目、専門科目を総合的に再度学習し、国家試験に向けて理学療法士に必要な知識を整理し、理解を深めます。ここでは、主に基礎医学および臨床医学と基礎専門科目を中心に学習します。

また、国家試験過去5～10年間の出題傾向の分析を行い、合格率100%を目指し、グループ学習を基本としてゼミ形式から個人対応まで様々な学習形態をとりながら、既知の知識を整理します。

★仕上がり像

- 1 解剖学、生理学や心理学における人体の構造と機能について説明ができる。
- 2 神経障害、発達障害の患者に対して、適切な評価方法と治療手段を選択できる。
- 3 義肢装具の適応疾患と適切なチェックアップ手段を選択できる。

●授業内容

1	国家試験問題解説(1)	16	発達障害(2)筋ジストロフィー
2	国家試験問題解説(2)	17	発達障害(3)その他
3	国家試験問題解説(3)	18	解剖学(1)筋骨格系
4	国家試験問題解説(4)	19	解剖学(2)神経系
5	生理学(1)呼吸	20	解剖学(3)脈管系
6	生理学(2)循環	21	解剖学(4)内臓諸器官
7	生理学(3)嚥下・消化・吸収・排泄	22	解剖学(5)感覚器
8	生理学(4)自律神経	23	解剖学(6)その他
9	生理学(5)老化	24	病理学
10	生理学(6)その他	25	国家試験問題解説(5)
11	装具	26	国家試験問題解説(6)
12	装具・リハビリテーション機器	27	国家試験問題解説(7)
13	義肢(1)大腿義足	28	国家試験問題解説(8)
14	義肢(2)下腿義足・その他	29	国家試験問題解説(9)
15	発達障害(1)脳性麻痺	30	国家試験問題解説(10)
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験(70点)、小テスト(30点)により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

今まで使用してきた教科書を使用します。その他必要時に資料配付します。

●履修へのアドバイス

今までの授業内容をしっかりまとめておきましょう。また、新たにノートを用意して知識の整理を行うと同時に自分の得意分野や不得意分野を把握すること、加点できる箇所の確立を向上させること等を意識して自己分析ができるようにしてください。

理学療法障害学特論Ⅱ (全30回)	理学療法士科	3年	通年
	担当教員	長井豊貴 山本ともみ 近藤和夫 中田由香梨 中陳寿枝	

●授業概要

★この授業のねらい

今まで学んできた基礎医学、臨床医学、基礎専門科目、専門科目を総合的に再度学習し、国家試験に向けて理学療法士に必要な知識を整理し、理解を深めます。ここでは、主に基礎医学および臨床医学と基礎専門科目を中心に学習します。

また、国家試験過去5～10年間の出題傾向の分析を行い、合格率100%を目指し、グループ学習を基本としてゼミ形式から個人対応まで様々な学習形態をとりながら、既知の知識を整理します。

★仕上がり像

- 1 骨関節運動や筋収縮のメカニズム、姿勢や動作の正常と異常の差異について説明できる。
- 2 運動器障害や内部障害、精神障害に対する適切な評価方法を選択できる。
- 3 運動療法と物理療法、ADL、義肢装具など、病態に応じた治療手段を選択できる。

●授業内容

1	オリエンテーション	16	精神障害学 (うつ病)
2	国家試験問題解説(1)	17	精神障害学 (統合失調症)
3	模試のフィードバック(1)	18	精神障害学 (人格障害)
4	国家試験問題解説(2)	19	精神障害学 (その他)
5	模試のフィードバック(2)	20	運動学 (力学)
6	国家試験問題解説(3)	21	運動学 (筋収縮)
7	模試のフィードバック(3)	22	運動学 (関節運動)
8	国家試験問題解説(4)	23	運動学 (姿勢・動作・歩行)
9	模試のフィードバック(4)	24	運動学 (その他)
10	国家試験問題解説(5)	25	心電図の診方 (正常)
11	模試のフィードバック(5)	26	心電図の診方 (異常)
12	国家試験問題解説(6)	27	循環器系
13	模試のフィードバック(6)	28	運動耐容能
14	国家試験問題解説(7)	29	呼吸器系 (慢性閉塞性肺疾患)
15	模試のフィードバック(7)	30	呼吸器系 (その他)
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験 (70点)、小テスト (30点) により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

今まで使用してきた教科書を使用します。その他必要時に資料配付します。

●履修へのアドバイス

今までの授業内容をしっかりまとめておきましょう。また、新たにノートを用意して知識の整理を行うと同時に自分の得意分野や不得意分野を把握すること、加点できる箇所の確立を向上させること等を意識して自己分析ができるようにしてください。

理学療法管理学 (全8回)	理学療法士科	3年	後期
	担当教員	長井豊貴 富永淳	

●授業概要

★この授業のねらい

理学療法業務に携わる上で必要な基本的知識を理解し、業務上管理していかなくてはならないものは何か、また組織の一員として求められているものは何かについて理解します。

★仕上がり像

- 1 理学療法業務に関する基本的知識を説明することができる。
- 2 理学療法業務における運営とその仕組みを説明することができる。
- 3 理学療法業務遂行上のリスク管理について説明することができる。

●授業内容

1	コンプライアンスとモチベーション		
2	社会情勢との関連性		
3	目標設定と自己解決		
4	目標設定と自己研鑽		
5	リスク管理（医療事故、インシデント）		
6	リスク管理（院内感染、個人情報）		
7	接遇と人間関係		
8	理学療法と法の遵守		

●成績評価のしかた

提出課題、履修状況などを総合的に判断して評価します。

●教科書・参考図書

指定教科書は特にありません。必要に応じプリントを配付します。
 参考図書：細田多穂 他著「理学療法士プロフェッショナルガイド」（文光堂，2003年）
 細田多穂 監「シンプル理学療法シリーズ 理学療法入門テキスト」（南江堂，2007年）

●履修へのアドバイス

やりがいや生きがいのある職場とは、そして個々人としてそのために何をなすべきかを考えていきましょう。また利用者の満足度をサービスの視点から考えどのような組織形態が求められているのかを考えてみましょう。

運動器障害理学療法Ⅱ (全8回)	理学療法士科	3年	前期
	担当教員	高間 則昭	

●授業概要

★この授業のねらい

これまで「運動器障害学」をはじめ、理学療法評価に関する授業で障害の成り立ちから障害像までを学び、理学療法士が評価を基に、問題点を挙げ、治療計画を立案し、治療を実施する過程と実際の治療内容の精査を含めて「運動器障害理学療法Ⅰ」で学んできました。この科目では、臨床実習や就職後に遭遇するであろう運動器障害を挙げ、理学療法の評価から治療までをリスク管理を含めて学習します。

★仕上がり像

- 1 運動器障害の評価結果を考察でき、問題点を挙げ、治療計画を立案できる。
- 2 各運動器障害別に評価結果を考察でき、問題点を挙げ、治療計画を立案できる。
- 3 各運動器障害に対する理学療法を実施する際のリスク管理を挙げることができる。
- 4 各運動器障害に最適な治療を選択し、演習を行うことができる。

●授業内容

1	PBL (Ⅰ) 治療計画の立案 (問題点の抽出)		
2	PBL (Ⅰ) 治療計画の立案 (プランニング)		
3	PBL (Ⅰ) 治療の実践 (治療の実施)		
4	PBL (Ⅰ) 治療の実践 (振り返り)		
5	PBL (Ⅱ) 治療計画の立案 (問題点の抽出)		
6	PBL (Ⅱ) 治療計画の立案 (プランニング)		
7	PBL (Ⅱ) 治療の実践 (治療の実施)		
8	PBL (Ⅱ) 治療の実践 (振り返り)		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90点、および平常点10点 (提出課題の状況や履修状況など) の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：高柳清美 他編「運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版」
(南江堂, 2016年)
竹内義亨 他著「目で見える運動機能検査法」 (南江堂, 2005年)

●履修へのアドバイス

最近のトピックスを中心に、疾患別理学療法を学習します。運動器障害理学療法の集大成となります。「運動器障害理学療法評価法」・「運動器障害理学療法Ⅰ」で学んだことを整理し、評価～治療の一連の流れを捉えられるように学習しましょう。

神経障害理学療法Ⅱ (全8回)	理学療法士科	3年	後期
	担当教員	山本 ともみ	

●授業概要

★この授業のねらい

パーキンソン病などの神経変性疾患や多発性硬化症などの脱髄性疾患について、それらの基本的な病態や障害像を理解し、各疾患に対する理学療法の一連の流れや考え方を学びます。小テストを反復することで理解を深めます。

★仕上がり像

- 1 神経変性疾患や脱髄性疾患の障害像と理学療法の考え方について理解し、説明できる。
- 2 神経変性疾患や脱髄性疾患に対して適切な評価を選定できる。
- 3 神経変性疾患や脱髄性疾患に対して問題点を抽出し、問題点に準じたプログラムを立案できる。

●授業内容

1	パーキンソン病の理学療法		
2	パーキンソン病類縁疾患の理学療法		
3	脊髄小脳変性症の理学療法		
4	運動失調症の理学療法		
5	運動ニューロン疾患の理学療法		
6	多発性硬化症の理学療法		
7	ギラン・バレー症候群の理学療法		
8	重症筋無力症の理学療法		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（80点）、小テスト（15点）、履修状況（5点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：吉尾雅春 他編「標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第2版」
(医学書院, 2018年)

●履修へのアドバイス

この疾患に関する内容は国家試験にも必出です。類似した疾患や症状を混同することがないように、各授業後に自分自身でまとめ、特徴を整理するようにしてください。

内部障害理学療法Ⅱ (全8回)	理学療法士科	3年	前期
	担当教員	中田由香梨 近藤和夫	

●授業概要

★この授業のねらい

内部障害の患者は急増してきており、臨床現場においても経験することが多くなってきています。この授業では、内部障害理学療法評価学、内部障害理学療法Ⅰをふまえて、それぞれの疾患についての評価項目や治療プログラム立案などの介入方法を学習します。その中でリスク管理も重要となってきます。リスク管理とそのための疾患の特徴について学習します。

★仕上がり像

- 1 呼吸器疾患の患者に評価項目や治療プログラムを立案できる。
- 2 虚血性心疾患リハビリテーションの目的と病期毎の実施内容について説明できる。
- 3 内部障害患者にリスクを管理しながら、評価項目と治療プログラムを立案できる。

●授業内容

1	周術期の呼吸理学療法		
2	COPDの呼吸理学療法		
3	酸素療法・在宅患者の呼吸理学療法		
4	小児の呼吸理学療法		
5	心臓弁膜症と心筋症		
6	大動脈・末梢動脈疾患		
7	心不全（病態・臨床像）		
8	心不全（検査所見と運動・生活指導）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、及び平常点で総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書：
 高橋仁美 他著「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版」（中山書店，2016年）
 木村雅彦 他編「15レクチャーシリーズ内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版」（中山書店，2017年）

●履修へのアドバイス

内部障害理学療法Ⅰで学んだことをふまえて内部障害理学療法Ⅱでは各論を中心に学習します。しっかりと復習してください。

理学療法特論Ⅰ (全15回)	理学療法士科	3年	通年
	担当教員	綿谷美佐子 高間則昭	

●授業概要

★この授業のねらい

基礎医学から臨床医学、リハビリテーション専門領域や障害学などを系統的に理解した上で、初めてリハビリテーション対象者（患者・利用者）に対峙することができます。また1・2年次の基礎医学・臨床医学の講義を中心に、運動器障害理学療法分野の第一線で活躍している臨床現場のスペシャリストから貴重な体験談や特殊な技術を学びます。

★仕上がり像

- 1 基礎医学・臨床医学・リハビリテーション専門領域の相互関連性を説明できる。
- 2 臨床場面にて遭遇するであろう運動器障害の代表疾患について、治療体系を説明できる。
- 3 理学療法の疾患別の治療体系を整理し、理論を含めて説明ができる。
- 4 実際の評価および治療までの一連の流れを説明でき、実践できる。

●授業内容

1	スポーツ領域の理学療法（総論）
2	スポーツ領域の理学療法（評価ポイント）
3	スポーツ領域の理学療法（治療ポイント）
4	スポーツ領域の理学療法（アスレチックリハビリテーション）
5	PNF（基本的知識）
6	PNF（基礎理論）
7	PNF（基本手技 パターン）
8	PNF（基本手技 特殊技術）
9	徒手療法ベーシック編（寝返り）
10	徒手療法ベーシック編（起き上がり）
11	徒手療法ベーシック編（立ち上がり）
12	徒手療法アドバンス編（腰痛）
13	徒手療法アドバンス編（股関節疾患）
14	徒手療法アドバンス編（膝関節疾患）
15	徒手療法アドバンス編（歩行）
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験90点、平常点10点の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：ありません。
資料を配付する予定です。

●履修へのアドバイス

より具体的で、実戦的な内容で臨床場面で導入できると思います。
代表的な疾患の評価から治療までの一連の流れや考察のポイントなどを中心に行います。

理学療法特論Ⅱ (全15回)	理学療法士科	3年	通年
	担当教員	坂野康介 長久武史 小山昭人 佐藤義文 長井豊貴	

●授業概要

★この授業のねらい

基礎医学から臨床医学、リハビリテーション専門領域や障害学などを系統的に理解した上で、初めてリハビリテーション対象者（患者・利用者）に対峙することができます。また1・2年次の基礎医学・臨床医学の講義を中心に、神経障害理学療法分野や内部障害理学療法分野などにおいて第一線で活躍している臨床現場のスペシャリストから貴重な体験談や特殊な技術を学びます。

★仕上がり像

- 1 基礎医学・臨床医学・リハビリテーション専門領域の相互関連性を説明できる。
- 2 臨床場面にて遭遇するであろう神経障害理学療法分野などの代表疾患について、治療体系を説明できる。
- 3 理学療法法の疾患別の治療体系を整理し、理論を含めて説明ができる。
- 4 実際の評価および治療までの一連の流れを説明でき、実践できる。

●授業内容

1	パーキンソン病の疾病と障害	
2	パーキンソン病の理学療法	
3	脊髄小脳変性症の疾病と障害	
4	脊髄小脳変性症の理学療法	
5	筋萎縮性側索硬化症の疾病と障害・理学療法	
6	多発性硬化症の疾病と障害・理学療法	
7	ボバース法の理論（考え方）	
8	ボバース法の理論（障害のとらえ方）	
9	ボバース法の理論（治療の基本）	
10	代謝系障害の理学療法（考え方）	
11	代謝系障害の理学療法（障害像）	
12	代謝系障害の理学療法（評価）	
13	代謝系障害の理学療法（治療）	
14	がんのリハビリテーション（現状）	
15	がんのリハビリテーション（課題）	
	定期試験	

●成績評価のしかた

定期試験90点、平常点10点の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：日本糖尿病療養指導士認定機構 編「糖尿病療養指導士受験ガイドブック2019」
(メディカルビュー社、2019年)

●履修へのアドバイス

より具体的で実戦的な内容で臨床に即したものです。
代表的な疾患の評価から治療までの一連の流れや考察のポイントなどを中心に行います。

理学療法特論Ⅲ (全15回)	理学療法士科	3年	通年
	担当教員	中田由香梨 加藤新司 富永淳 清川雅文	

●授業概要

★この授業のねらい

基礎医学から臨床医学、リハビリテーション専門領域や障害学などを系統的に理解した上で、初めてリハビリテーション対象者（患者・利用者）に対峙することができます。また1・2年次の基礎医学・臨床医学の講義を中心に、「呼吸器疾患」や「リウマチ疾患」の理学療法やレッドコードおよび捕装具を使用した治療法など、第一線で活躍している臨床現場のスペシャリストから貴重な体験談や特殊な技術を学びます。

★仕上がり像

- 1 基礎医学・臨床医学・リハビリテーション専門領域の相互関連性を説明できる。
- 2 臨床場面にて遭遇するであろう代表疾患について、治療体系を説明できる。
- 3 理学療法の疾患別の治療体系を整理し、理論を含めて説明できる。
- 4 実際の評価および治療までの一連の流れを説明でき、実践できる。

●授業内容

1	レッドコード基本		
2	レッドコード腰部のスタビリティ		
3	レッドコード実技（器具の取り扱い）		
4	レッドコード実技（体幹）		
5	レッドコード実技（上肢）		
6	レッドコード実技（下肢）		
7	呼吸理学療法(1)		
8	呼吸理学療法(2)		
9	呼吸理学療法(3)		
10	呼吸理学療法(4)		
11	関節リウマチ（病態）		
12	関節リウマチ（検査・薬物）		
13	関節リウマチ（理学療法評価）		
14	関節リウマチ（理学療法治療）		
15	装具療法の実践		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験90点、平常点10点の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書：ありません。
資料を配付する予定です。

●履修へのアドバイス

より具体的で実戦的な内容です。臨床場面で遭遇する 代表的な疾患の評価から治療までの一連の流れや考察のポイントなどを中心に行います。

地域リハビリテーションⅢ (全8回)	理学療法士科	3年	通年
	担当教員	内藤 麻生	

●授業概要

★この授業のねらい

在宅で生活している高齢者や障害者がどのような生活をしているかを理解し、その上で地域における理学療法士の役割を学びます。

★仕上がり像

- 1 地域で求められる理学療法士の役割と基本となる制度について説明することができる。
- 2 訪問リハビリテーションの内容の理解と事例を通じての評価について説明することができる。

●授業内容

1	地域における理学療法士の役割		
2	介護保険とケアマネジメント		
3	訪問リハビリテーション (制度と内容)		
4	訪問リハビリテーション (実践)		
5	訪問リハビリテーション (リスク管理)	<input type="checkbox"/>	
6	訪問リハビリテーション (評価)		
7	事例を通じた評価の実際		
8	まとめ		
	定期試験		<input type="checkbox"/>

●成績評価のしかた

定期試験90点、平常点10点の総合評価とします。

●教科書・参考図書

教科書なし。講義・資料プリントを配付します。
 参考図書：日本訪問リハビリテーション協会 編
 「新版 訪問リハビリテーション実践テキスト」(青梅社, 2016年)

●履修へのアドバイス

地域における理学療法士の役割を訪問リハを通じて理解を深めます。ロールプレイ等ありますので、想像力豊かに積極的に取り組んでください。

地域理学療法 (全8回)	理学療法士科	3年	前期
	担当教員	福嶋 篤	

●授業概要

★この授業のねらい

急激な高齢化の進展をはじめとする人口構造の変化や近年の技術革新により社会環境は大きく変化しています。それに伴い、理学療法士に求められる役割も変化していくことが予想されます。授業では、まず地域理学療法に関連する制度やサービス等の基本的知識を学習します。学習を通じて、理学療法士として地域の生活者をどのように支援していけるのか、また、地域における包括的な考え方や多職種協働の必要性を理解することで、変化していく社会の中で地域における理学療法士はどうあるべきかを考えていきます。

★仕上がり像

- 1 地域理学療法の概要や関連する法制度、社会資源等について理解し、説明できる。
- 2 地域包括ケアの概念を理解し、地域で求められる理学療法士の役割を説明できる。
- 3 地域で暮らす高齢者や障害者を“生活者”と捉える視点を持つことができる。
- 4 包括的視野に立って、地域での理学療法実施の計画を立てることができる。

●授業内容

1	オリエンテーション 地域とは		
2	地域理学療法概論		
3	地域理学療法と関連制度		
4	介護保険下での理学療法		
5	地域包括ケアと多職種連携		
6	健康増進・介護予防		
7	ヘルスコミュニケーション・地域づくり		
8	求められる理学療法士のあり方		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（90点）、課題提出及び履修状況（10点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

その都度資料を配付します。

参考図書：浅川育世 編「地域理学療法学 第3版」（医歯薬出版，2019年）

大淵修一 他監「予防理学療法学要論」（医歯薬出版，2017年）

●履修へのアドバイス

地域理学療法に関する基本的な知識を学習しつつ、現場での理学療法に関する話題など情報提供を行い、みなさんに考えていただく場面をつくっていく予定です。可能な限り具体的な事例を検討することにより、地域における理学療法士のあり方を一緒に考えていきます。積極的な意見交換を期待しています。

臨床実習Ⅲ（総合）	（315時間）	理学療法士科	3年	前期
		担当教員	臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床実習指導者の監督の下、各種疾患の障害に対するリハビリテーション全般を実習体験します。身体的・精神的・社会的な面など対象者を取り巻く状況全てを包括的にとらえ、医療従事者としてリハビリテーション専門職としての基本的な資質を身に付けることを目標とします。また、評価～問題点の抽出～治療計画の立案～治療～再評価～治療計画の修正～治療の実施という一貫した流れを学習します。

★仕上がり像

- 1 臨床実習指導者の監督・指示の下、評価・問題点の抽出・治療計画立案および治療の実施・ゴールの設定までを1人で行うことができる。
- 2 評価結果やさまざまな情報を統合解釈して、適切な治療を選択しこれを実施できる。
- 3 医療従事者・リハビリテーション専門職としての資質を備えることができる。

●授業内容

<p>オリエンテーション・院内見学</p> <p>症例1を担当</p> <p>評価計画の立案：指導</p> <p>初期評価</p> <p>症例2を担当</p> <p>評価のまとめとレポート指導</p> <p>治療計画の立案：指導</p> <p>治療実施</p> <p>学生中間評価・指導・本校専任教員巡回訪問指導</p> <p>治療実施</p> <p>症例中間評価・治療の見直し</p> <p>治療実施</p> <p>最終評価実施</p> <p>各担当症例のレポートまとめ：指導</p> <p>担当症例報告会</p> <p>実習最終評価・まとめ・挨拶回り</p> <p>症例報告会の開催（学内）</p>

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による実習評価（50点）と症例報告会の発表等の学内評価（50点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

ありません。
臨床実習指導者に連絡を行い、必要と思われる参考図書や知識を事前にそろえておきましょう。

●履修へのアドバイス

遅刻・早退や欠席の場合は、必ず事前に連絡しましょう。
社会人としての言動を求められます。
1人で解決しようとしなくて、すぐ相談や報告を行うようにしましょう。
常に積極的に行動するようにしましょう。

臨床実習Ⅳ（総合）	（315時間）	理学療法士科	3年	後期
		担当教員	臨床実習指導者及び専任教員	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床実習指導者の監督の下、各種疾患の障害に対するリハビリテーション全般を実習体験します。身体的・精神的・社会的な面など対象者を取り巻く状況全てを包括的にとらえ、医療従事者としてリハビリテーション専門職としての基本的な資質を身に付けることを目標とします。また、評価～問題点の抽出～治療計画の立案～治療～再評価～治療計画の修正～治療の実施という一貫した流れを学習します。

★仕上がり像

- 1 臨床実習指導者の監督・指示の下、評価・問題点の抽出・治療計画立案および治療の実施・ゴールの設定までを1人で行うことができる。
- 2 評価結果やさまざまな情報を統合解釈して、適切な治療を選択しこれを実施できる。
- 3 医療従事者・リハビリテーション専門職としての資質を備えることができる。

●授業内容

<p>オリエンテーション・院内見学</p> <p>症例1を担当</p> <p>評価計画の立案：指導</p> <p>初期評価</p> <p>症例2を担当</p> <p>評価のまとめとレポート指導</p> <p>治療計画の立案：指導</p> <p>治療実施</p> <p>学生中間評価・指導・本校専任教員巡回訪問指導</p> <p>治療実施</p> <p>症例中間評価・治療の見直し</p> <p>治療実施</p> <p>最終評価実施</p> <p>各担当症例のレポートまとめ：指導</p> <p>担当症例報告会</p> <p>実習最終評価・まとめ・挨拶回り</p> <p>症例報告会の開催（学内）</p>

●成績評価のしかた

臨床実習指導者による実習評価（50点）と症例報告会の発表等の学内評価（50点）により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

ありません。
臨床実習指導者に連絡を行い、必要と思われる参考図書や知識を事前にそろえておきましょう。

●履修へのアドバイス

遅刻・早退や欠席の場合は、必ず事前に連絡しましょう。
社会人としての言動を求められます。
1人で解決しようとしなくて、すぐ相談や報告を行うようにしましょう。
常に積極的に行動するようにしましょう。